市民向け国際アンケート調査結果

市民向け国際アンケート調査概要

国土交通省

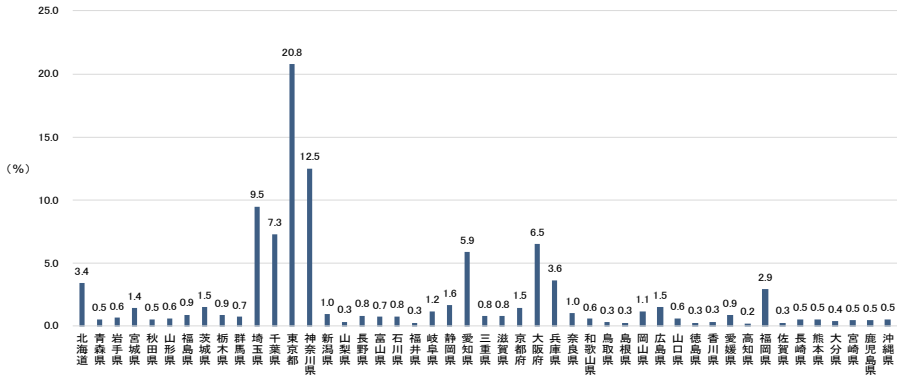
- 調査対象者：日本・イギリス・フランス・ドイツの18歳～65歳の男女について、首都圏（※1）居住者とその他地域居住者を1:1の割合でサンプルを回収（※2）
- 調査方法　：WEBアンケート
- 調査期間　：2020年9月18日 － 2020年10月8日
- 有効回答数：日本：4,376人　イギリス：2,164人　フランス：2,170人　ドイツ：2,181人

※1 首都圏は、日本：東京圏（一都三県）、イギリス：ロンドンメトロポリタンエリア、フランス：イルドフランス、ドイツベルリン・ブランデンブルク大都市圏地域　と設定。

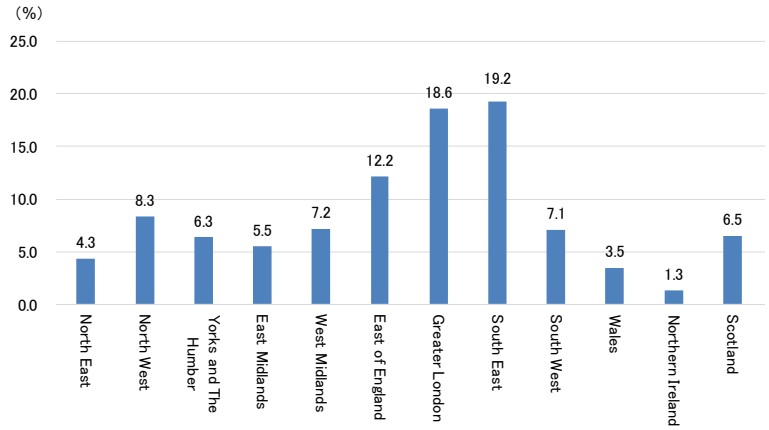
※2 首都圏内外在住者を合算して集計する際には、実際の人口比に応じたウェイトバック集計を実施。各図表のn数にはウェイトバック前のサンプル数を記載。

現住地分布

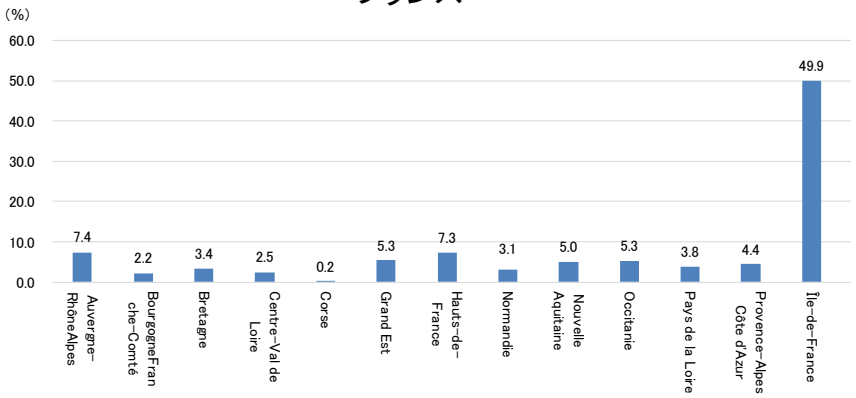
日本



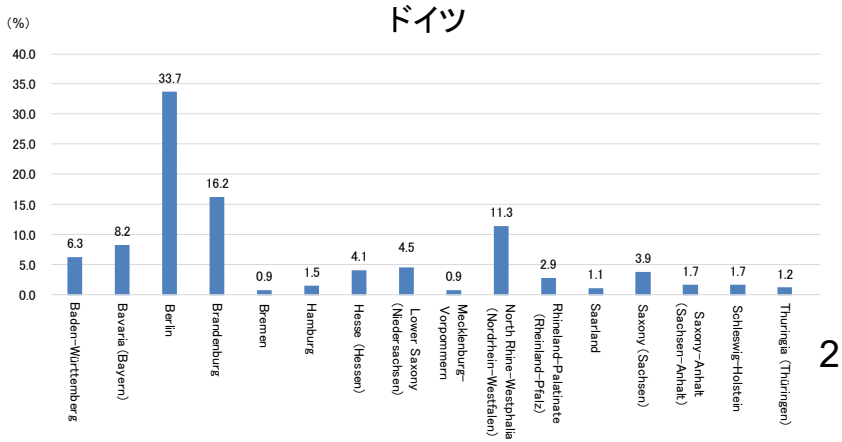
イギリス



フランス



ドイツ



市民向け国際アンケート調査結果のポイント

国土交通省

＜日本・イギリス・フランス・ドイツの18歳～65歳の男女を対象＞

○　日本は欧州諸国に比べ、
- ベンチャー企業での勤務や独立･起業に対する意識が低い。
- リスクが少なく安定している職への意識が高い。
- 失職した際に再就職が困難という意識が高い。

⇨ 多様な働き方の中から希望する仕事を選択でき、失敗しても再チャレンジ可能な、働きがいや活力のある社会を構築していくことが必要

○　地方圏から東京圏に移住した背景には男女差があり、女性は地元では「閉塞感があること」や「利便性が低いこと」を理由とする割合が男性より高い。

⇨ 特に地方圏において、「女性は家庭を守るべき」という意識からの脱却や、女性が働きやすい職場環境の構築が重要

○　居住地選択に当たって、地震･水害リスクはあまり意識されていない。新型コロナ後の変化としては、「買い物の便利さ」、「衛生環境の良さ」、「人の混雑の少なさ」などが重視されるようになった。

⇨ 居住地選択等にあたり、災害や感染症のリスクが正確に把握できるよう、リスク情報の提供を適切に行う等の対応が必要

○　完全テレワークが実現した場合、引っ越しを検討したいとする東京圏在住者は約4割。そのうち転居先として地方圏も含め検討するとしているのは地方圏出身者で約4割。

⇨ テレワークが普及した場合、市民側では地方も含め引っ越しを検討するとしている人が一定数存在しており、企業側に人事制度等において柔軟な対応を求めていくことが必要

市民向け国際アンケート調査結果（まとめ）

国土交通省

＜調査概要＞

○ 調査対象：日本・イギリス・フランス・ドイツの18歳～65歳の男女
○ 調査期間：2020年9月18日 ― 2020年10月8日（WEBアンケート）
○ 有効回答数：日本：4,376人 イギリス：2,164人 フランス：2,170人 ドイツ：2,181人

＜就業・キャリアに関する意識＞

○ 東京圏流入者は高学歴・大企業勤務の割合が高い

○ 有名・大企業就業意識は欧州諸国に比べ高くはない
⇒東京圏流入者は圏外出身・在住者より高い

○ 中小企業やベンチャー企業での勤務、独立・起業に対する意識は欧州諸国より低い

○ リスクが少なく安定した職への意識が欧州諸国より高い

○ 失職した場合に希望する職への再就職は困難という意識が欧州諸国より高い

＜出身地に対する意識＞

○ 出身地で就業したいという意識は欧州諸国と比べ低くはない

○ 東京圏流入者の移住の背景となった地元の事情として、男性は「仕事」や「進学先」関係の、女性は「地域の閉塞感」や「利便性」関係の割合が高い

○ 欧州諸国に比べ出身地への愛着が低いとはいえず、出身地・所在地別や男女別で大きな差もない

○ 東京圏流入者は圏外出身・在住者よりも地域活動への参加率は高く、「地域活動に積極的でない人が東京圏に流入している」とはいえない

（⇒右上へ）

（⇒続き）

○ 欧州諸国に比べ、「夫が働き妻は家庭」という意識が強い
⇒東京圏流入者の女性は、地元の人がこの意識を持っていると考えている割合が高い

○ 欧州諸国に比べ、家庭での役割分担は女性に偏重

→ 特に地方において、女性活躍社会の構築が求められる

＜居住地選択に関する意識＞

○ 居住地選択の際の災害リスクへの認識は低いが、その中で東京圏外への流出者が相対的に高い

○ 今般の感染症の拡大を受け、「買い物の便利さ」、「衛生環境」、「混雑の少なさ」をより重視するよう変化

＜テレワークの利用状況と移住意向＞

○ 東京圏在住のフルタイム労働者のうち4割強が何らかの形でテレワークを利用
⇒勤務先の規模が大きいほど利用率は高い

○ ほぼ完全なテレワーク勤務が可能となった場合に、そのうち東京圏在住者の約4割が引っ越しを検討したいと回答
⇒子供と同居する世帯等ではやや低い水準

○ 引っ越し先としては、東京圏流入者で、地方を含めて検討したいという割合が高い（38%）

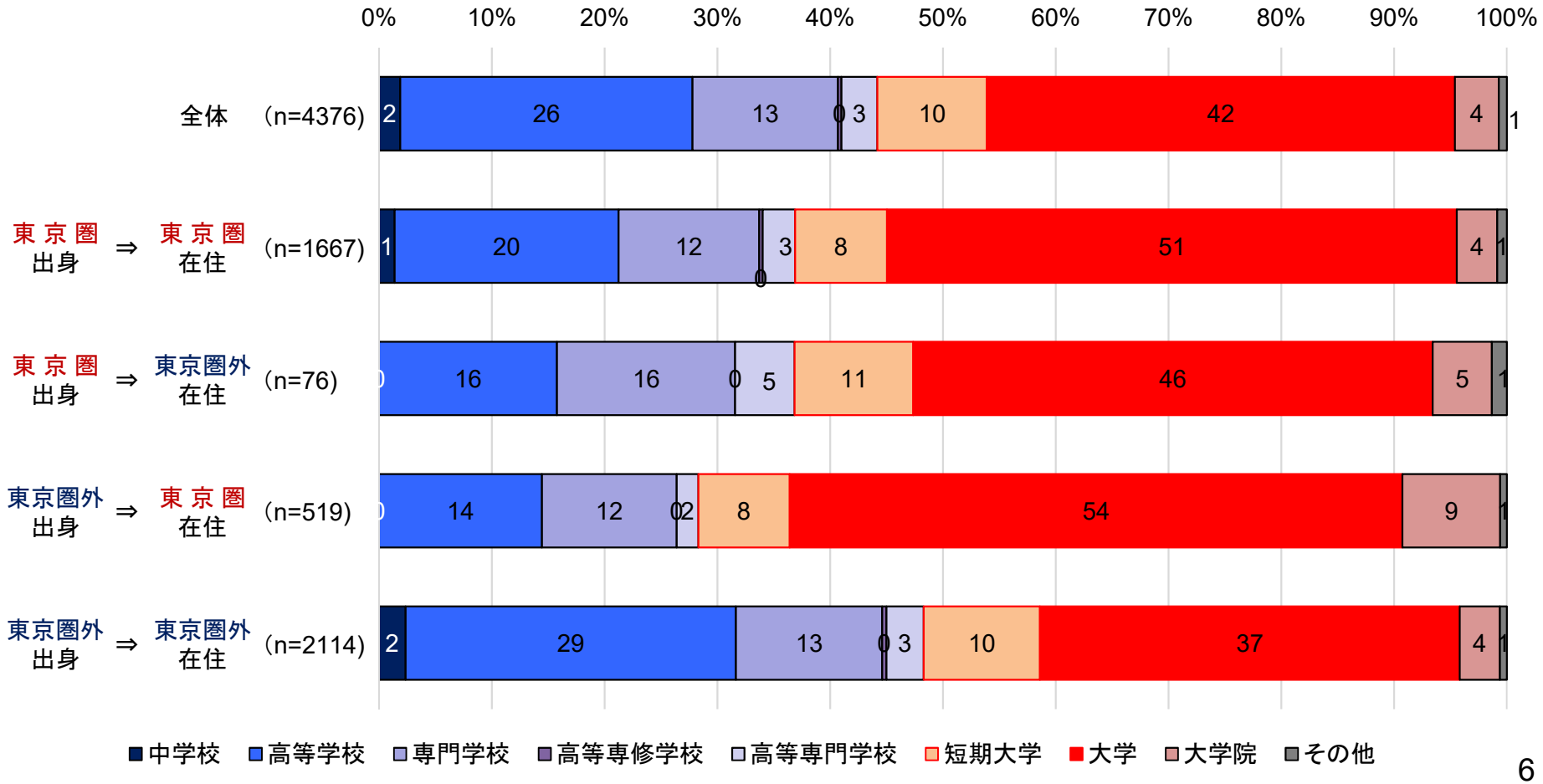
就業・キャリアに関する意識

学歴

国土交通省

● 出身・在住地別で学歴を比較すると、東京圏への流入者のうち54%が大卒者、9%が大学院卒者で最も高く、東京圏外出身・在住者のも大卒・大学院卒割合が最も低い。

Q. あなたが最初の就職の直前（学生時代）に通った学校（現在学生の場合は現在通っている学校）についてお答えください



※出身地：15歳になるまでの間で最も長く過ごした地域。

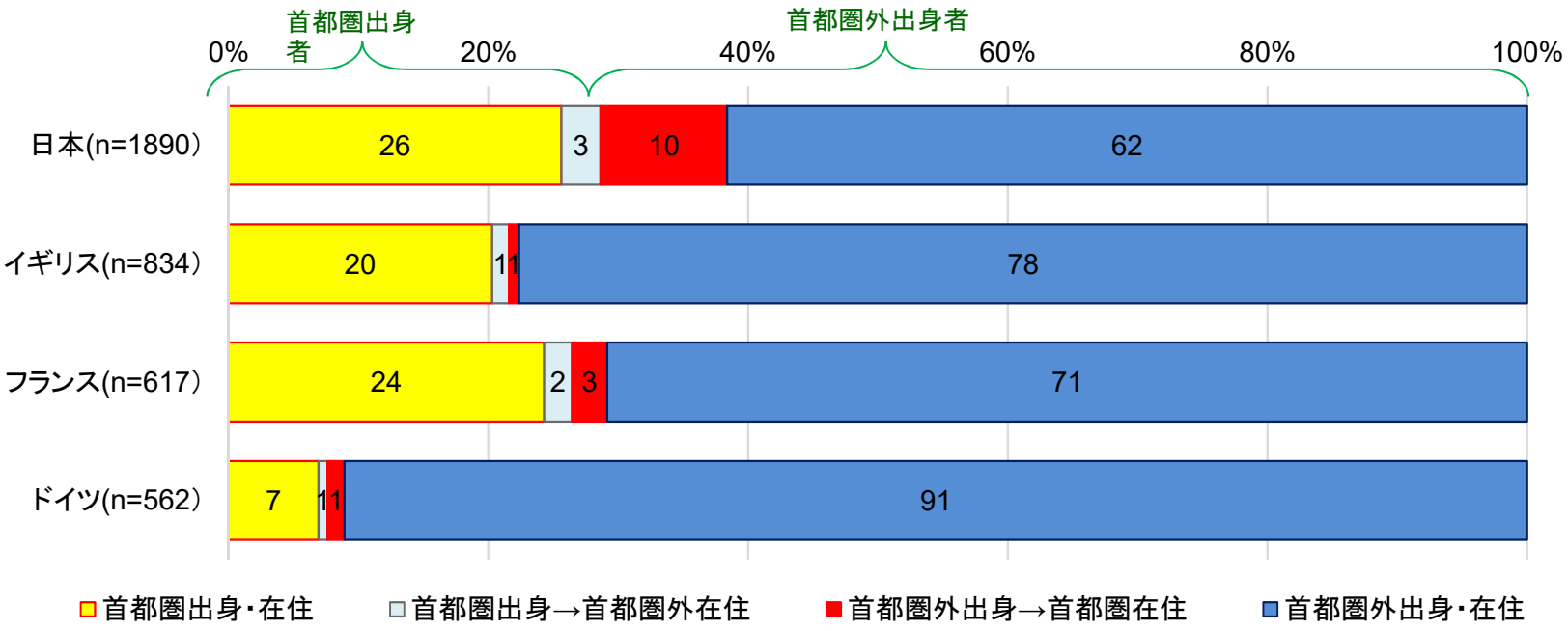
高学歴者の出身地・在住地の状況（国際比較）

国土交通省

● 大卒相当以上の人の国内での移動（出身地と在住地の関係）を見ると、日本では首都圏外出身者の1割程度が首都圏に在住しており、これは欧州諸国ではほとんど見られない動き。

大学相当以上の教育機関卒業者の出身地と在住地

※現在学生の人は除外して集計



※出身地：15歳になるまでの間で最も長く過ごした地域。
※首都圏は、日本：東京圏（一都三県）、イギリス：グレーターロンドン、フランス：イルドフランス、ドイツ：ベルリン・ブランデンブルク大都市圏地域　と定義。
※学歴は「あなたが最初の就職の直前（学生時代）に通った学校についてお答えください」という問いへの回答であり、大学相当以上とした教育機関は以下のとおり。
日本：大学・大学院、イギリス：大学・大学院、フランス：グランゼコール、大学、国立高等教員養成学院
ドイツ：総合大学、専門大学、デュアル大学

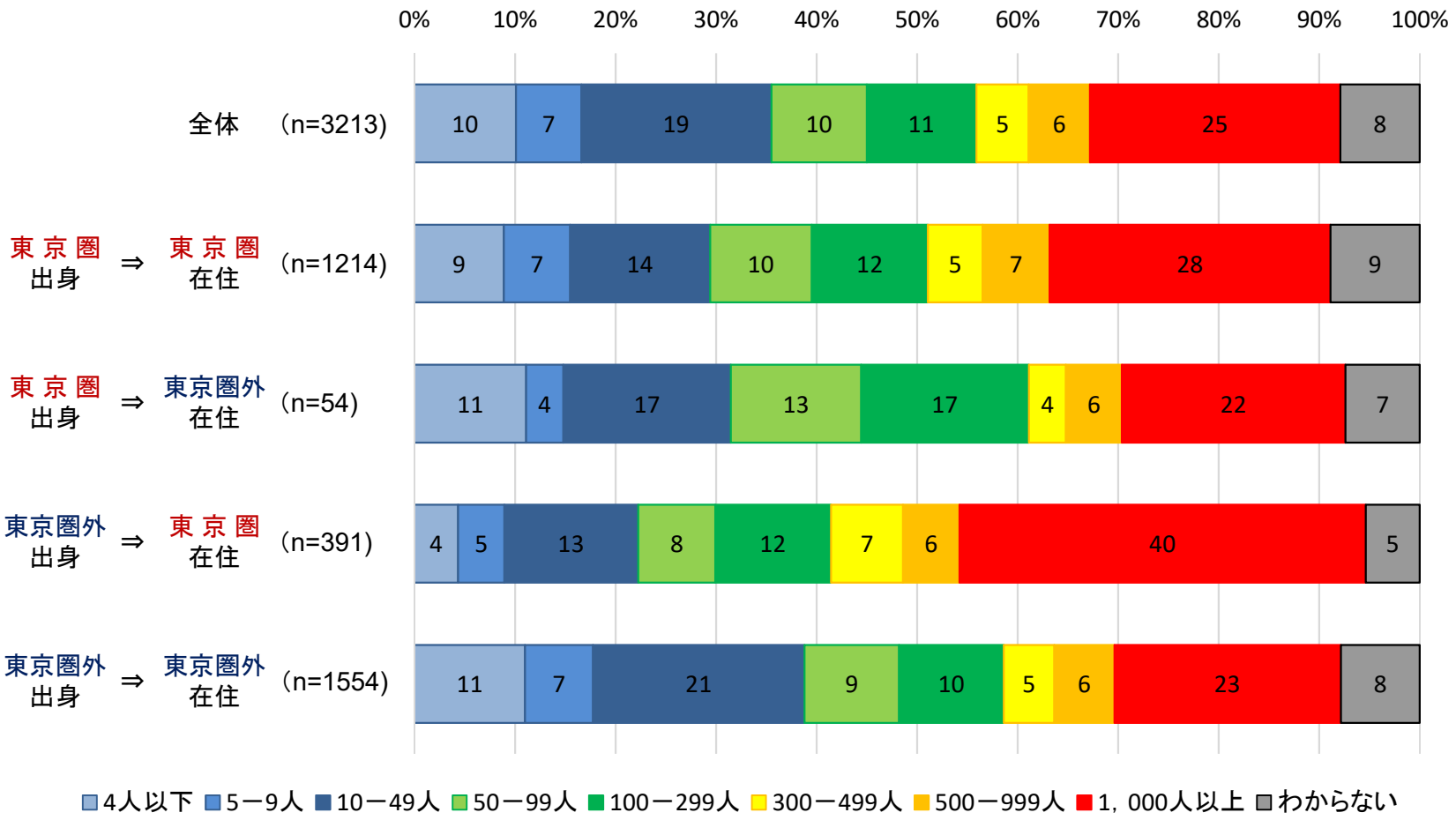
就労先の企業規模

国土交通省

● 就業者の就業先の企業規模を出身・在住地別で比較すると、東京圏への流入者が大規模な企業に勤務している割合が高く、40%が1,000人以上の企業に勤務している。

Q. あなたの現在の会社の従業員規模をお答えください。

※母集団：就業者



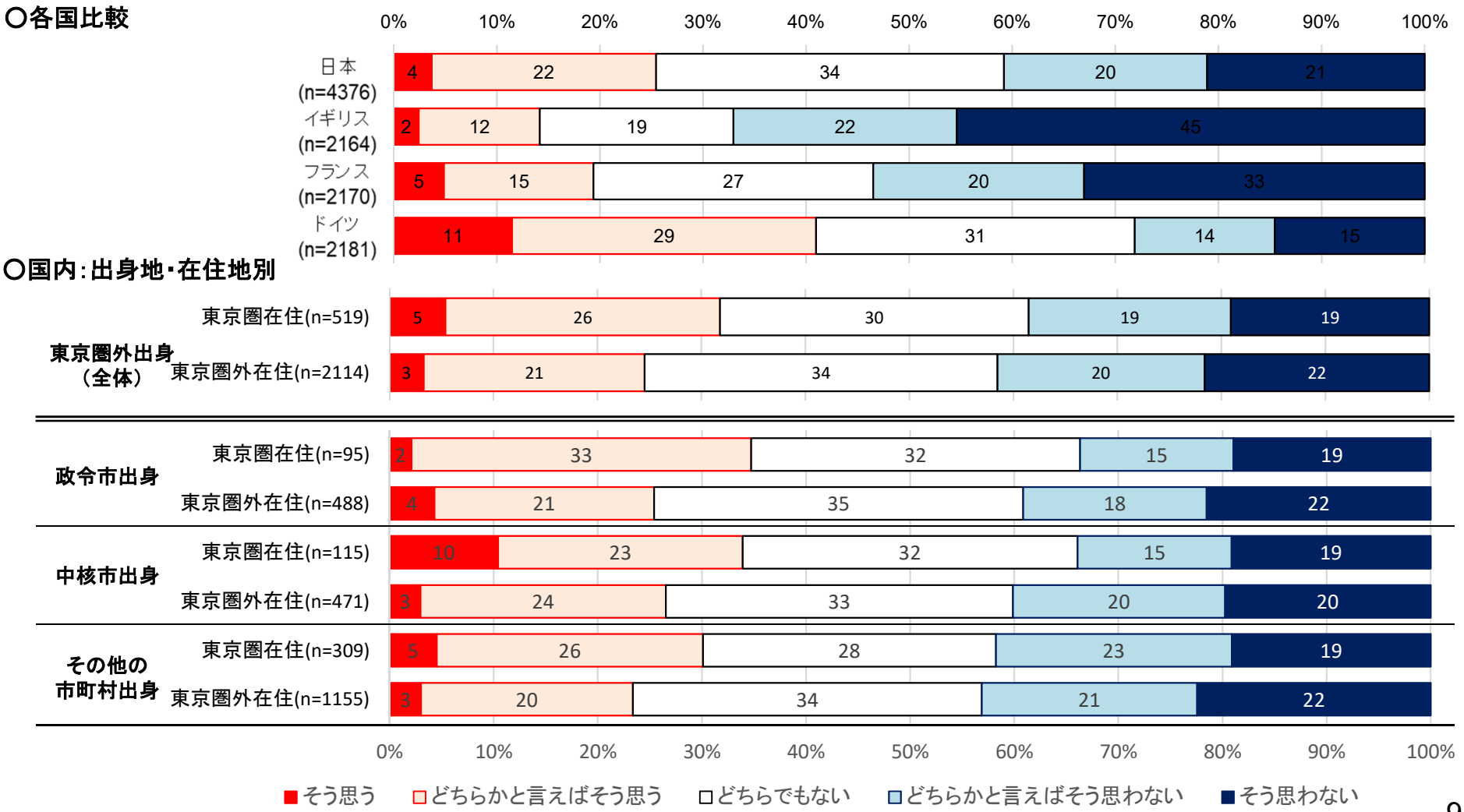
※出身地：15歳になるまでの間で最も長く過ごした地域。
※派遣社員等は、派遣先の会社の規模を回答。

有名大学・有名企業志向

国土交通省

- 有名大卒・有名企業就職がキャリアの成功であるという意識は国によりばらつきがあるが、日本が特に高いわけではない。
- 出身・在住地別に見ると、東京圏への流入者は東京圏外出身・在住者に比べてキャリア意識が強い傾向。

Q. あなたは「有名大学に行き、有名企業に就職する」ことがキャリアの成功だと思いますか。



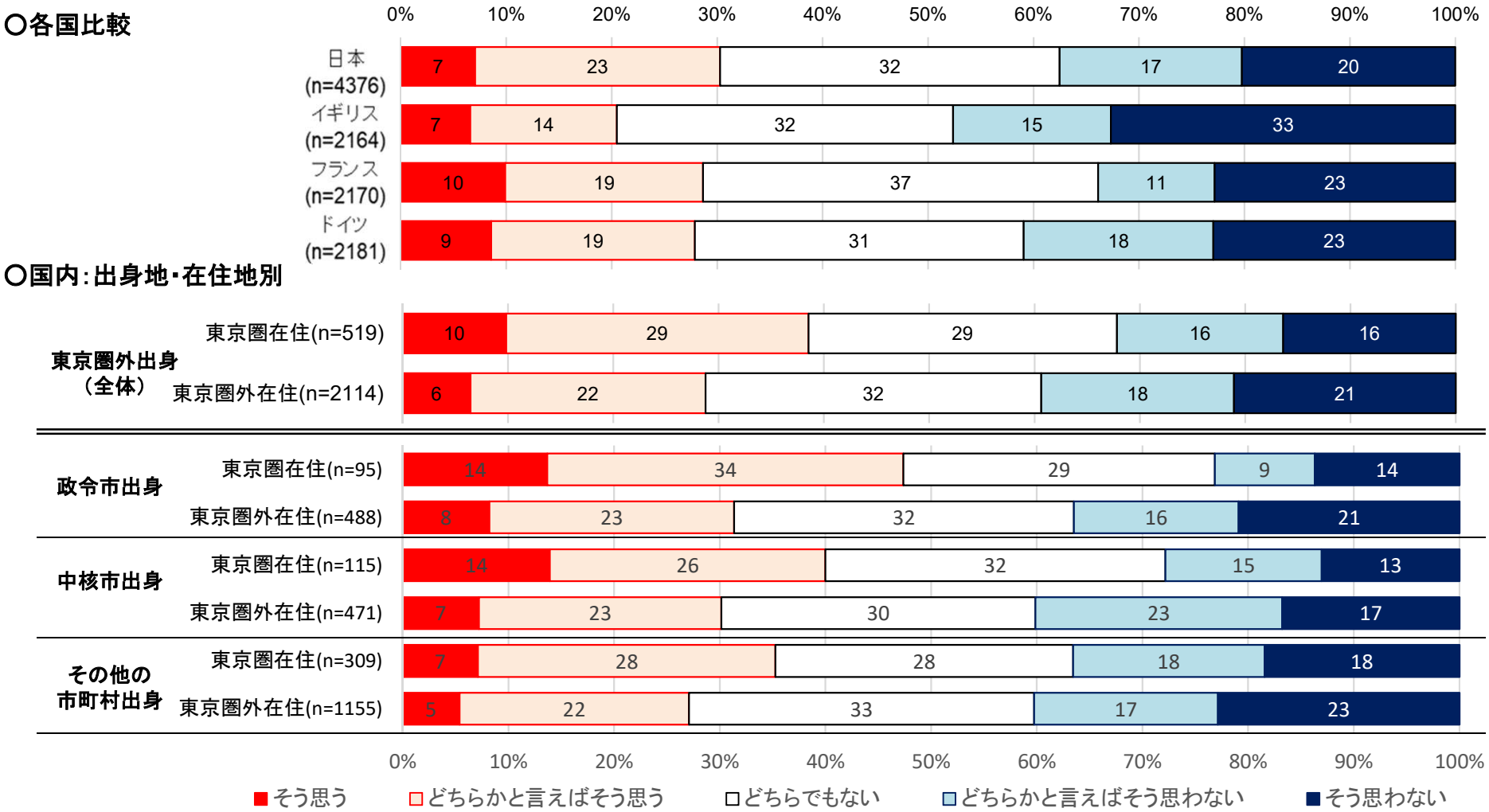
※出身地：15歳になるまでの間で最も長く過ごした地域。

大企業志向

国土交通省

- 日本で大企業で働きたいと回答している割合は約3割であり、フランス･ドイツと比べ特に高いわけではない。
- 出身･在住地別に見ると、東京圏への流入者は東京圏外出身･在住者に比べて大企業志向が強い傾向にある。

Q. あなたの仕事観についてお聞かせください。大企業で働きたいですか。



※出身地：15歳になるまでの間で最も長く過ごした地域。

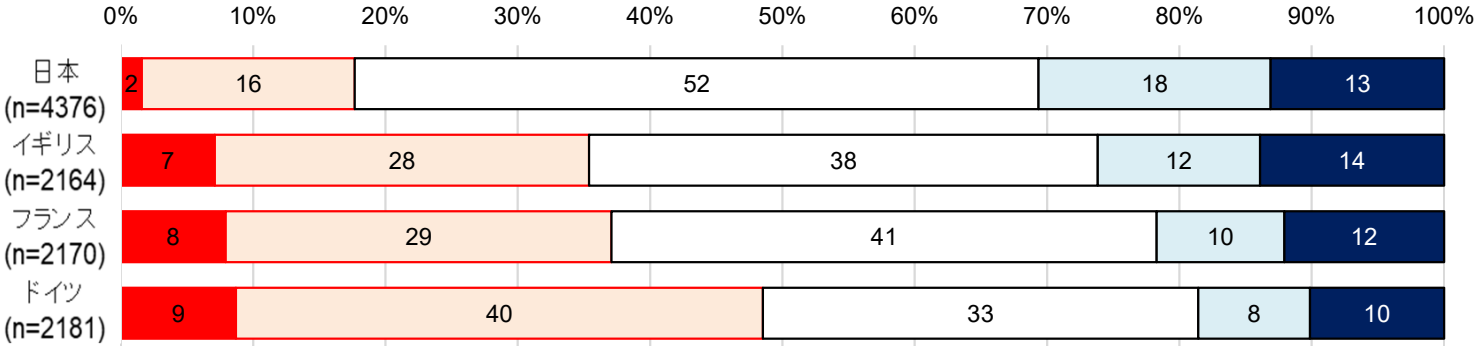
中小企業志向

国土交通省

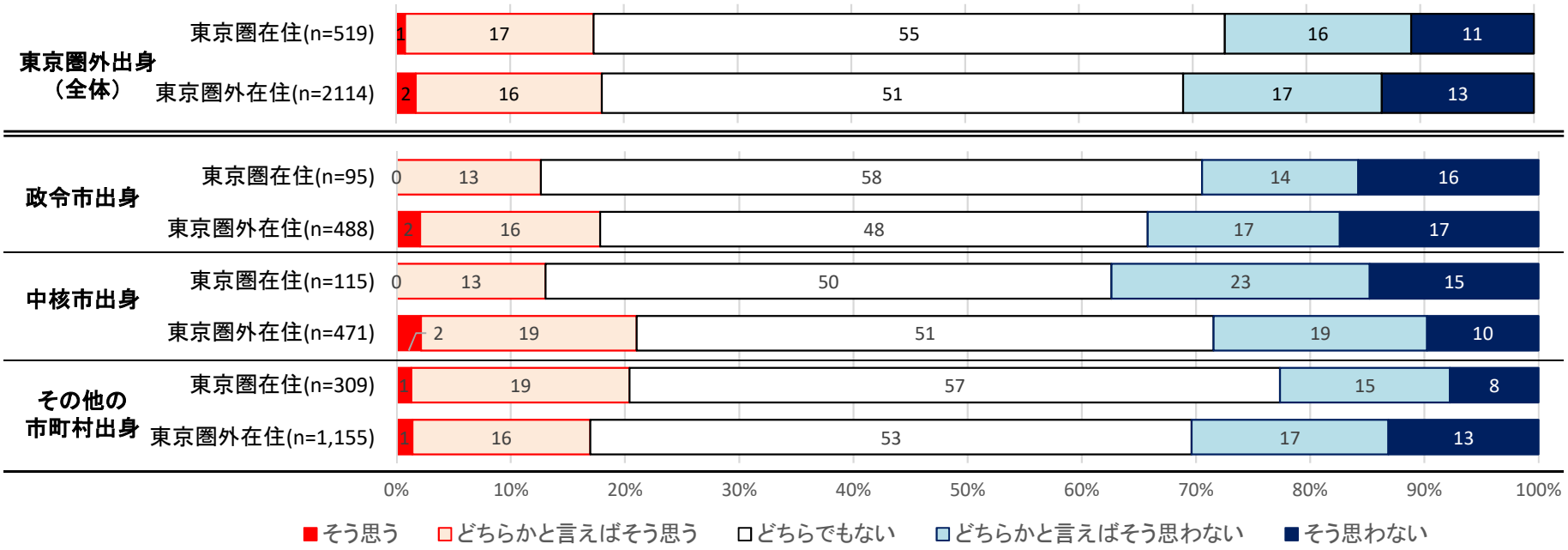
- 欧州諸国では3割強～5割弱が中小企業で働きたいと回答しているのに対し、日本はで2割弱と低い水準。
- 東京圏外出身者の在住地別に見ても、東京圏内外在住で意識に大きな差はない。

Q. あなたの仕事観についてお聞かせください。中小企業で働きたいですか。

○各国比較



○国内：出身地・在住地別



※出身地：15歳になるまでの間で最も長く過ごした地域。

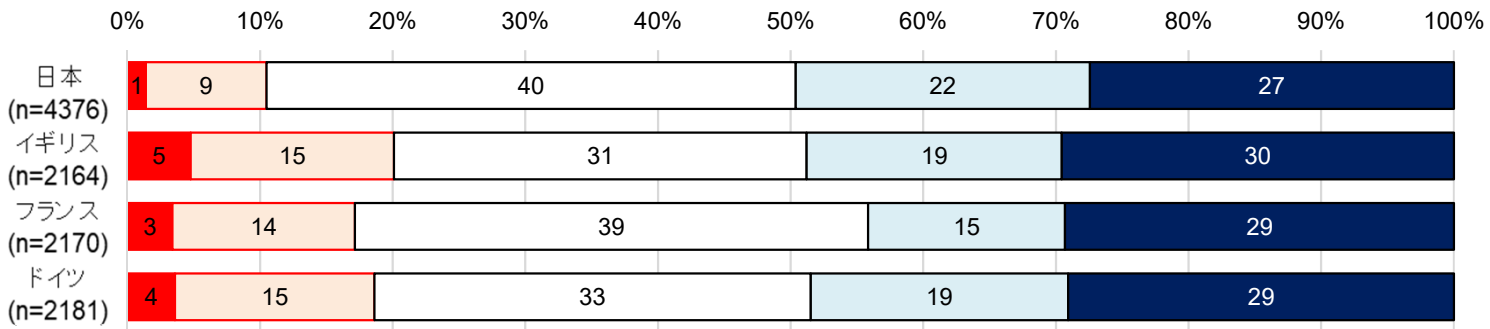
ベンチャー・スタートアップ企業志向

国土交通省

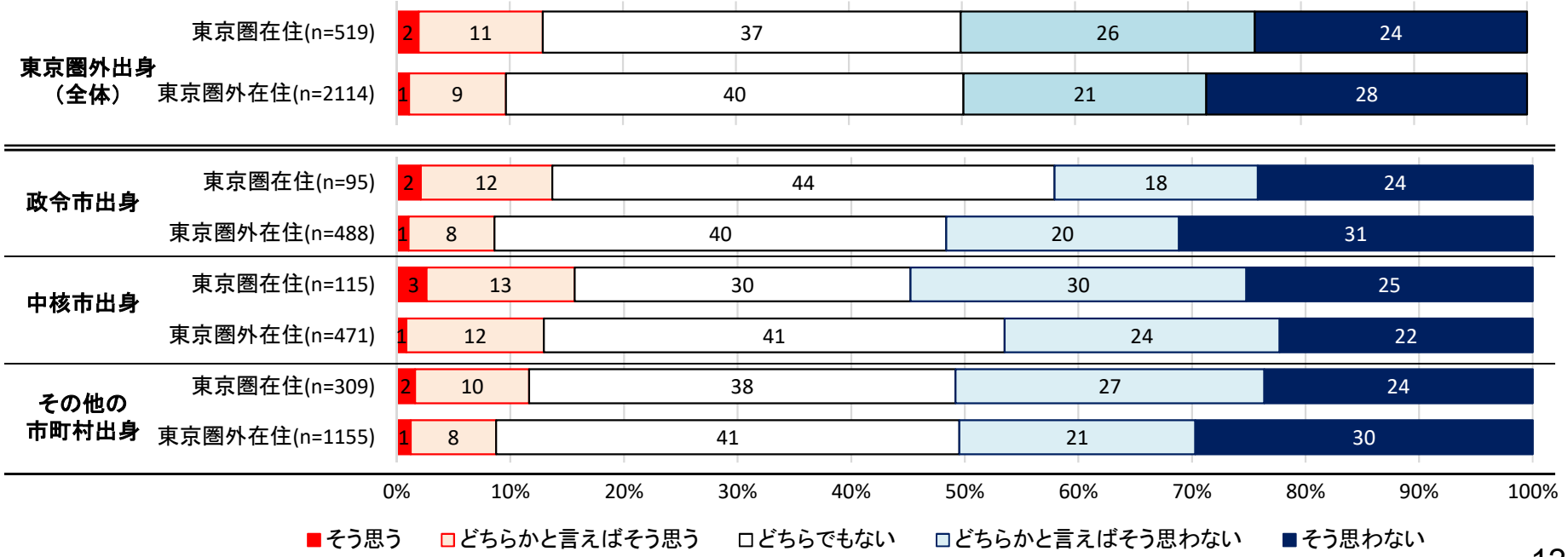
- ベンチャー・スタートアップ企業で働きたいと回答している者は日本は1割程度で、欧州諸国に比べて低い。
- 出身・在住地別に見ると、東京圏への流入者でベンチャー・スタートアップ企業を志向する割合が高い傾向にある。

Q. あなたの仕事観についてお聞かせください。ベンチャー・スタートアップ企業で働きたいですか。

○各国比較



○国内：出身地・在住地別



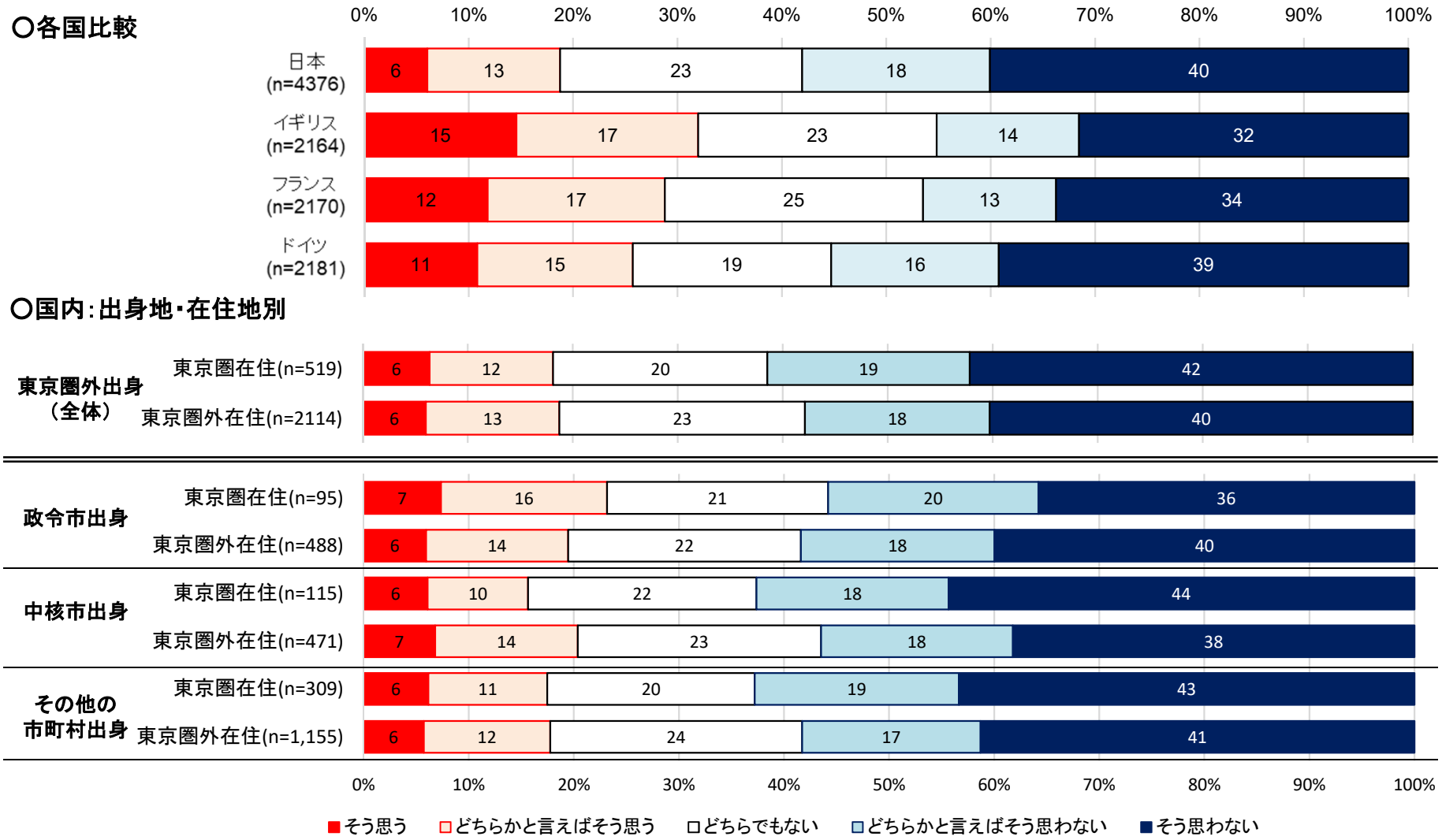
※出身地：15歳になるまでの間で最も長く過ごした地域。

独立・起業志向

国土交通省

- 独立・起業したいと回答している者は日本では2割弱であり、欧州諸国に比べて低い。
- 東京圏外出身者の在住地別に見ても、東京圏内外在住で意識に大きな差はない。

Q. あなたの仕事観についてお聞かせください。独立・起業したいですか。



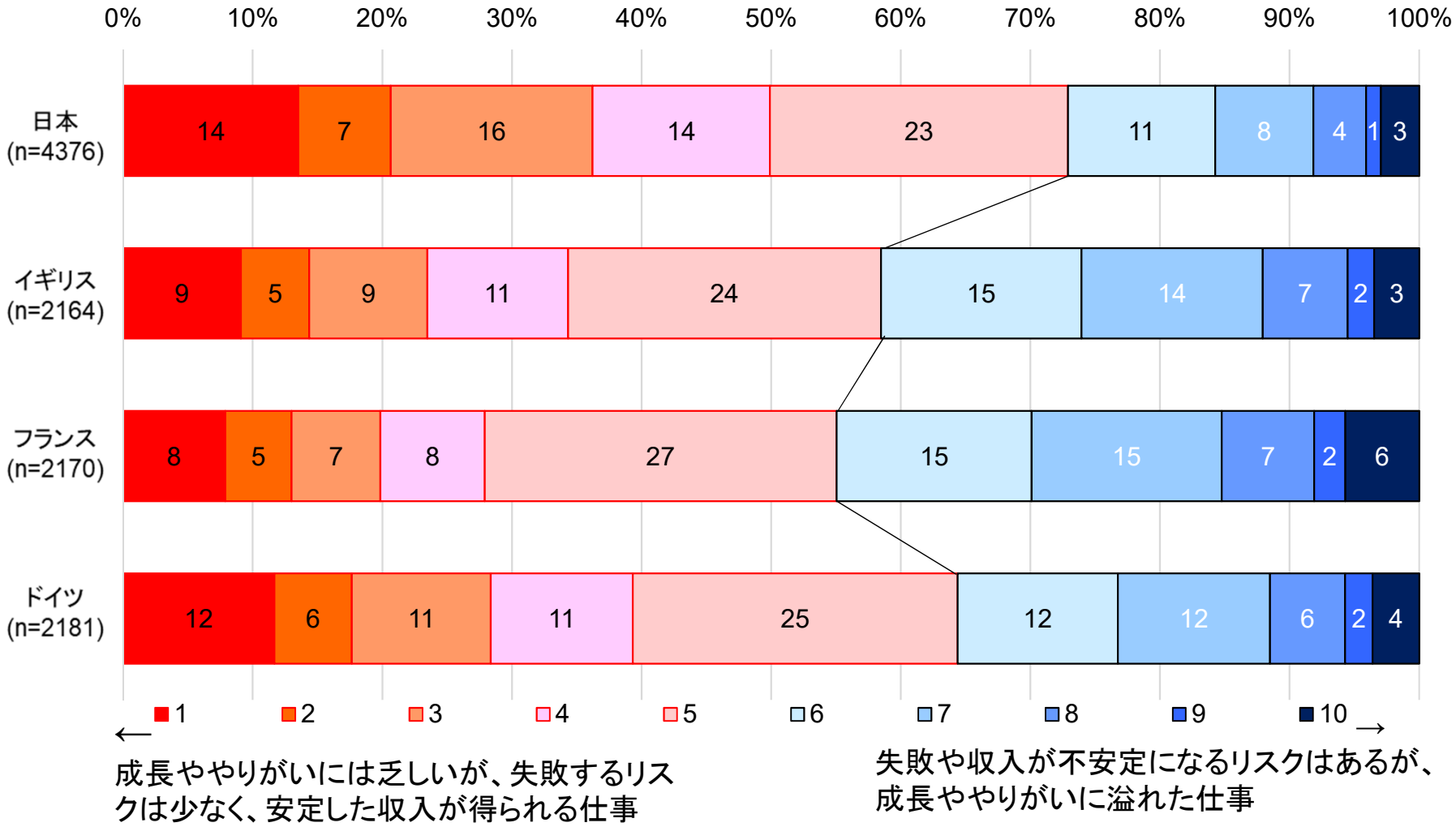
※出身地：15歳になるまでの間で最も長く過ごした地域。

就きたい仕事に関する考え（各国比較）

国土交通省

- 日本では、欧州諸国に比べて仕事に安定を求める傾向があり、約7割が成長ややりがいに溢れる仕事よりも、リスクが少なく安定した収入が得られる仕事につきたいと考えている。

Q. あなたは「成長ややりがいには乏しいが、失敗するリスクは少なく、安定した収入が得られる仕事」と「失敗や収入が不安定になるリスクはあるが、成長ややりがいに溢れた仕事」なら、どちらにつきたいですか。10段階でお答えください。



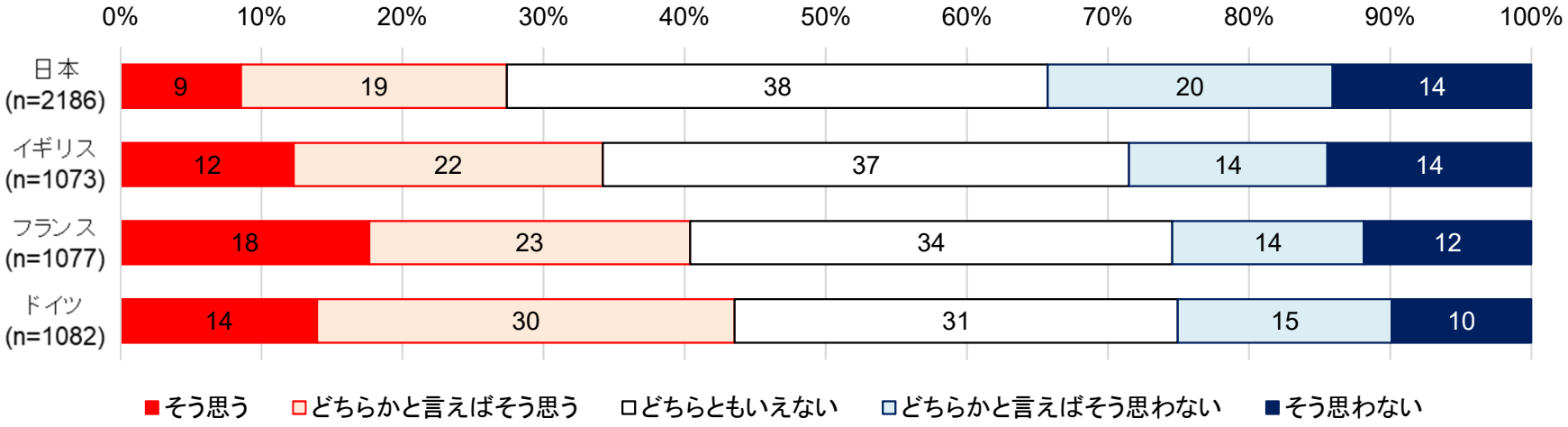
再就職可能性・チャレンジに関する意識

国土交通省

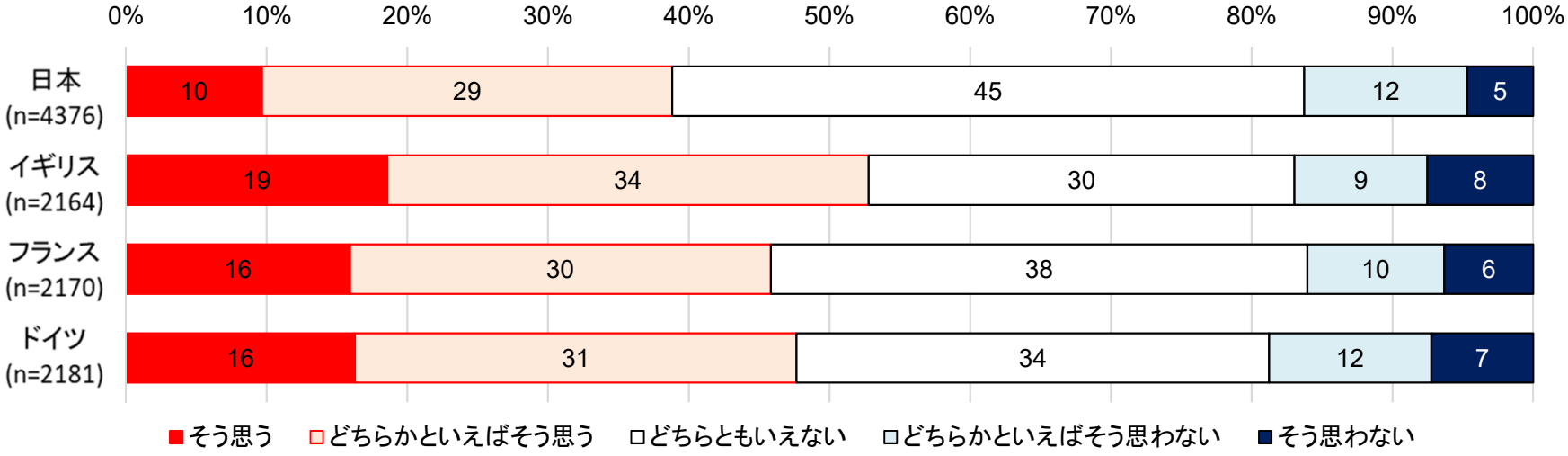
- 日本では、失職したら希望の仕事につけないと考えている人の割合が欧州諸国に比べて高い。
- 新たな事へのチャレンジに対する応援や賛同が得られるという意識は欧州諸国に比べて低い。

Q. あなたは突然仕事を失ったとしても、希望の仕事につけると思いますか。

※母集団：首都圏在住者



Q. あなたが他の人がしないことに挑戦しようとしたとき、家族や周囲の知人は応援・賛同してくれますか。

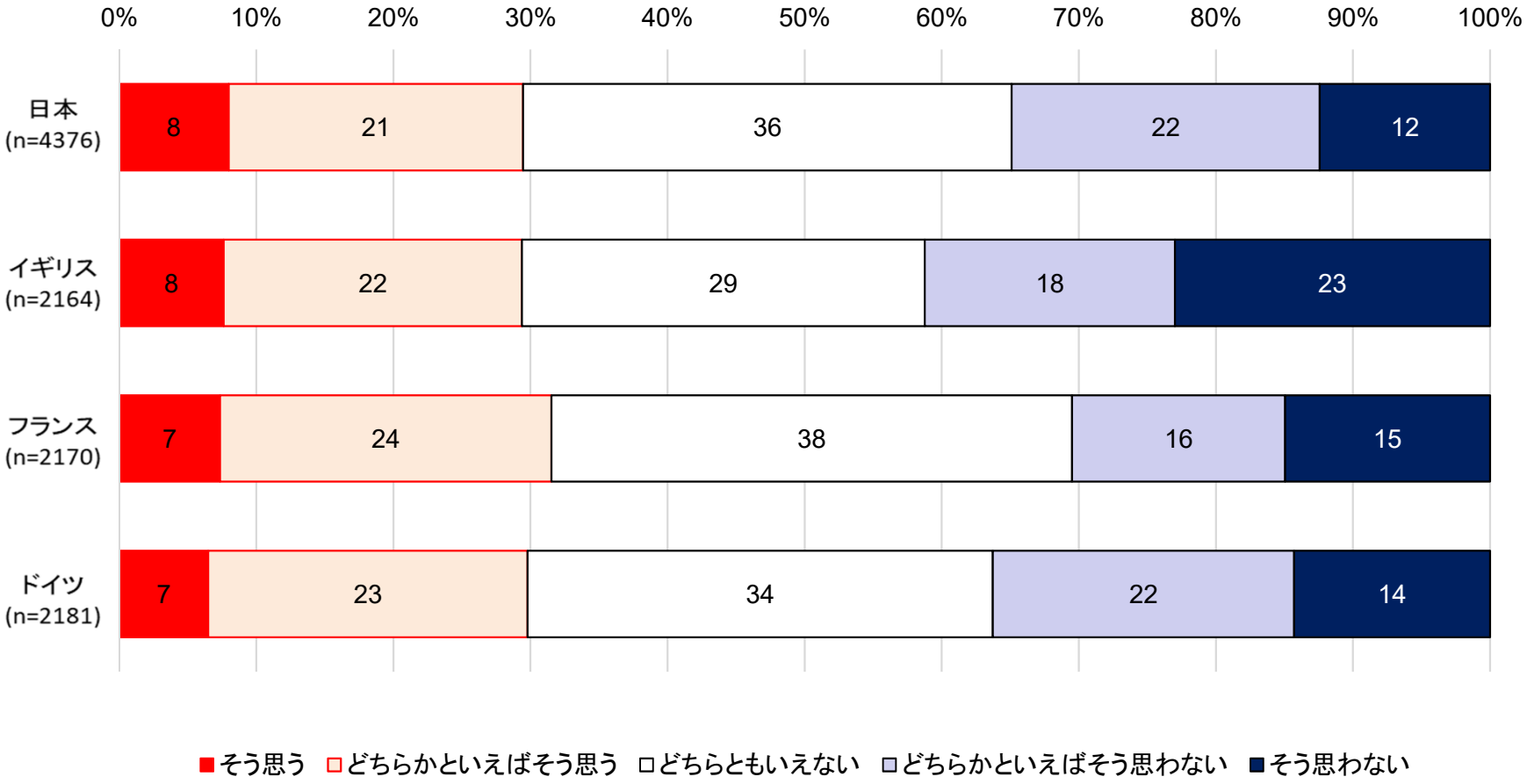


周囲の人の意見や評価への意識

国土交通省

- 周囲の人の意見や評価が気になり、自身が望む働き方や生き方を選択できないという意識は、日本と欧州諸国で大きな差はない。

Q. あなたは家族や周囲の知人の意見や評価が気になり、自身が望む働き方や生き方を選択できないと感じたことがありますか。



周囲の人の意見や評価への意識

国土交通省

- 「有名大卒・有名企業就職がキャリアの成功である」という意識を持っている人の方が、「生き方の選択等において周囲の人の意見や評価が気になり望む選択ができない」と感じたことがある人の割合が高い。

Q. あなたは家族や周囲の知人の意見や評価が気になり、自身が望む働き方や生き方を選択できないと感じたことがありますか。

（%）

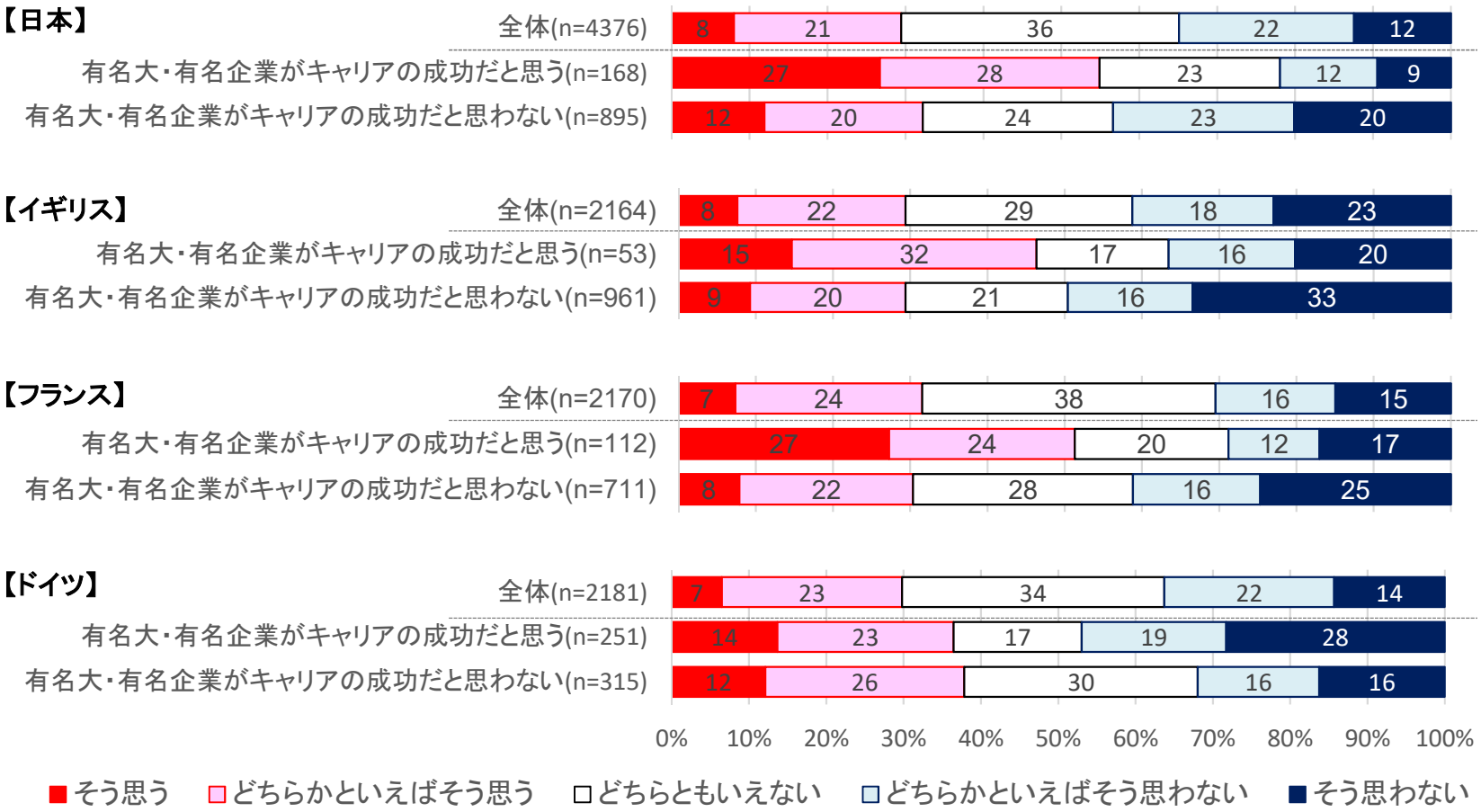
		家族や周囲の知人の意見や評価が気になり、自身が望む働き方や生き方を選択できないと感じたことがある					
		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	合計
「有名大学に行き、有名企業に就職する」ことがキャリアの成功である	そう思う (n=168)	26.7	28.2	23.2	12.5	9.4	100.0
	どちらかといえばそう思う (n=966)	7.5	24.3	32.2	25.1	10.9	100.0
	どちらともいえない (n=1479)	5.7	18.7	46.7	19.0	9.9	100.0
	どちらかといえばそう思わない (n=868)	4.7	23.2	34.7	26.5	10.8	100.0
	そう思わない (n=895)	11.9	20.3	24.4	23.2	20.1	100.0

周囲の人の意見や評価への意識（国際比較）

国土交通省

● ドイツ以外は、「有名大卒・有名企業就職がキャリアの成功」という意識を持っている人は「周囲の人の意見や評価が気になり望む選択ができない」と感じている割合が高い。

Q. あなたは家族や周囲の知人の意見や評価が気になり、自身が望む働き方や生き方を選択できないと感じたことがありますか。



※ 表頭の区分は「あなたは「有名大学に行き、有名企業に就職する」ことがキャリアの成功だと思いますか。」という問に対して「そう思う」、「そう思わない」と回答した人。

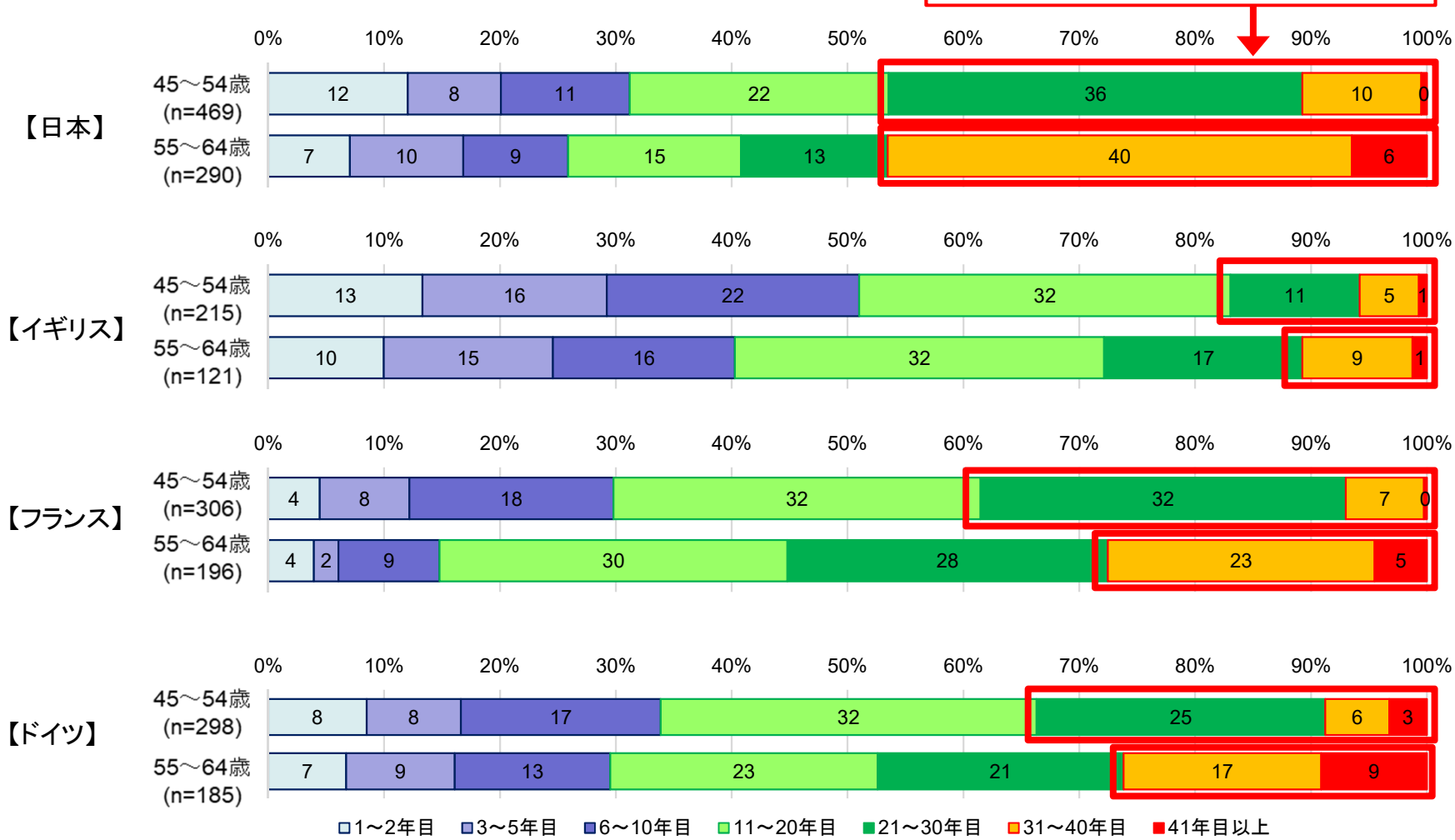
勤続年数

国土交通省

● 欧州諸国に比べて日本は勤続年数が長く、終身雇用制の影響がうかがえる。

※母集団:フルタイム正社員

Q. 現在の勤続先に勤め始めて何年目ですか。



出身地に対する意識

出身地で働きたい意向

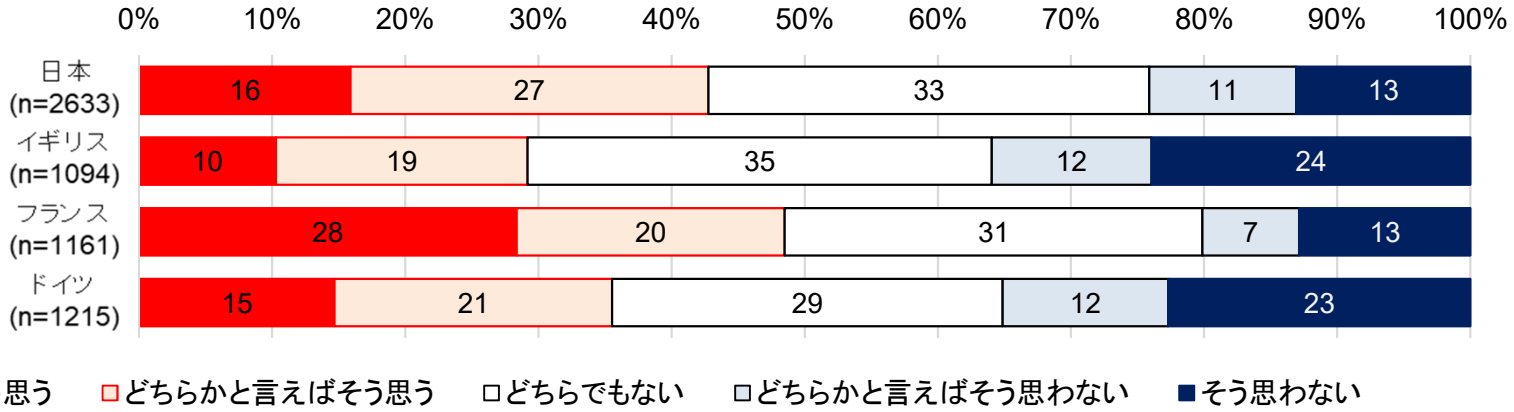
国土交通省

- 出身地で働きたいと考えている人の割合は国によってばらつきがあるものの、日本が欧州諸国に比して低いわけではない。
- 出身・在住地別に見ると、東京圏への流入者で出身地で働きたいとは思っていない人の割合が高い。

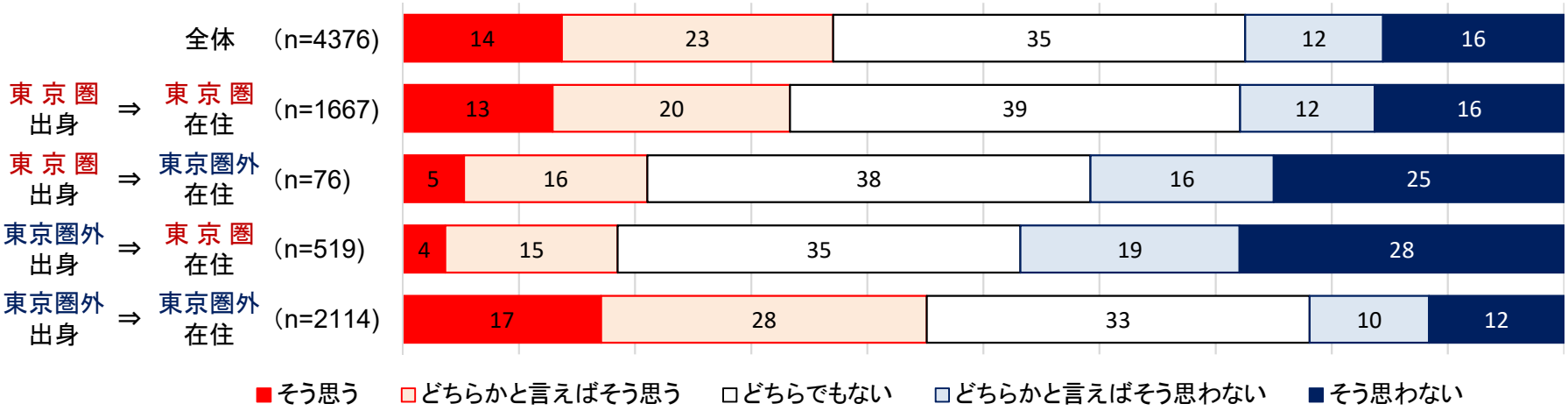
Q. あなたの仕事観についてお聞かせください。 出身地で働きたいと思いますか。

※母集団：首都圏外出身者

○各国比較



○国内：出身地・在住地別



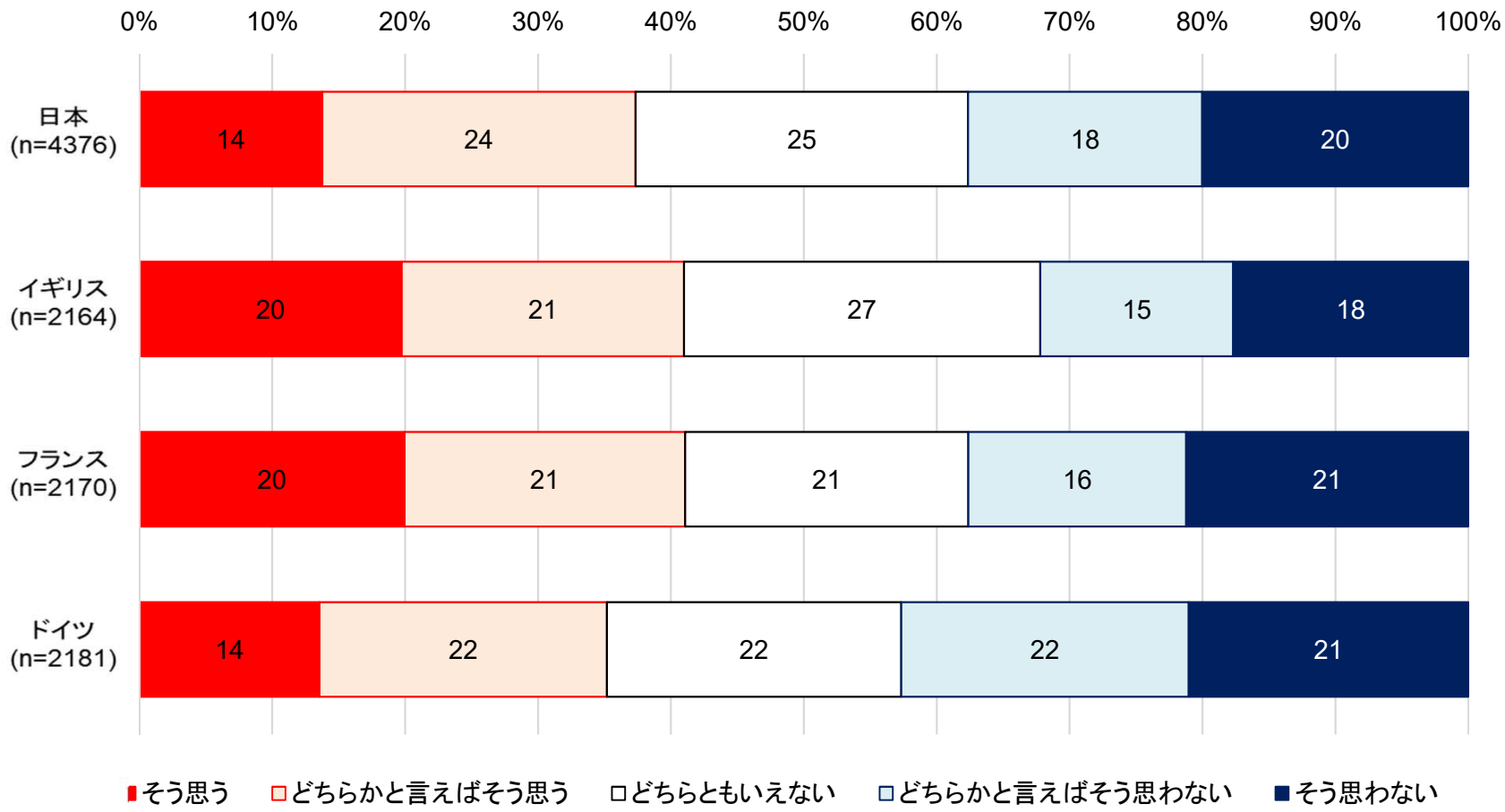
※出身地：15歳になるまでの間で最も長く過ごした地域。

転勤による転居の許容意識

国土交通省

● 転勤を許容できると回答している人の割合は、欧州諸国に比べて高いとは言えない。

Q. あなたは仕事のために、転勤による転居を受け入れられますか。



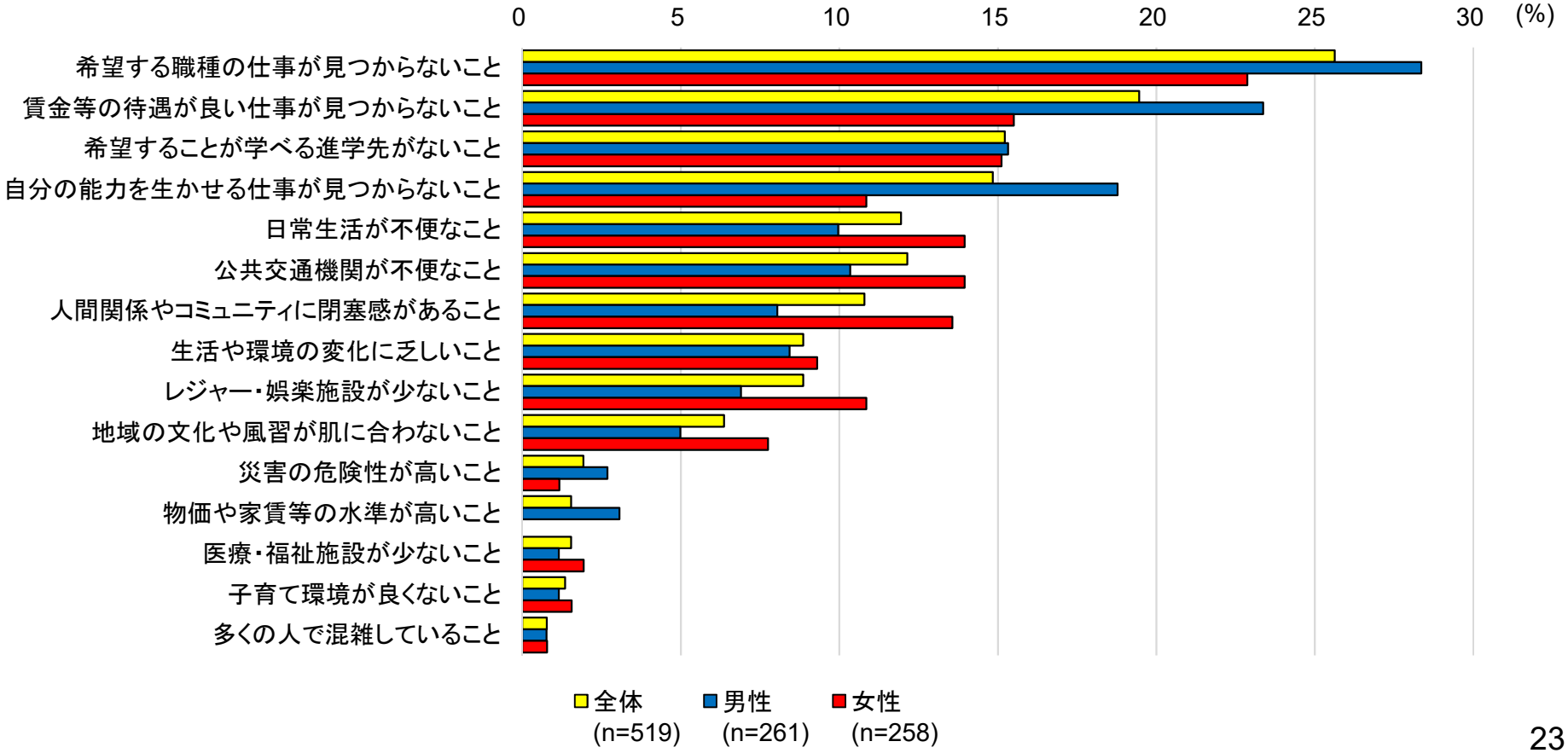
東京圏流入者が移住することを選択した背景となった地元の事情（男女別）

国土交通省

- 東京圏への流入者の移住の背景となった地元の事情としては、「仕事」や「進学先」関係の割合が高い。
- 男女別に見ると、特に男性は「仕事」や「進学先」関係の割合が高いのに対し、女性は「地域の閉塞感」や「利便性」関係の割合が高い。

Q. あなたが地元に残らずに移住することを選択した背景となった事情として、あなたの地元にあてはまるものを全てお選びください。

※母集団：東京圏外出身の東京圏在住者



※「その他」の回答を除く。
※出身地：15歳になるまでの間で最も長く過ごした地域。

東京圏流入者が移住することを選択した背景となった地元の事情（出身自治体規模別）

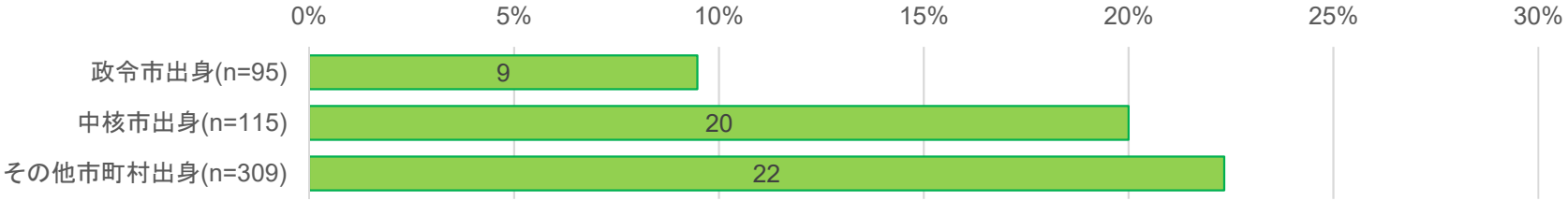
国土交通省

- 東京圏への流入者の移住の背景となった地元の事情を出身市町村の規模別に見ると、政令市出身者では「賃金等の待遇がいい仕事が見つからない」、「自分の能力を生かせる仕事が見つからない」の割合は低く、これらの観点は政令市レベルでは比較的問題とはなっていないと考えられる。

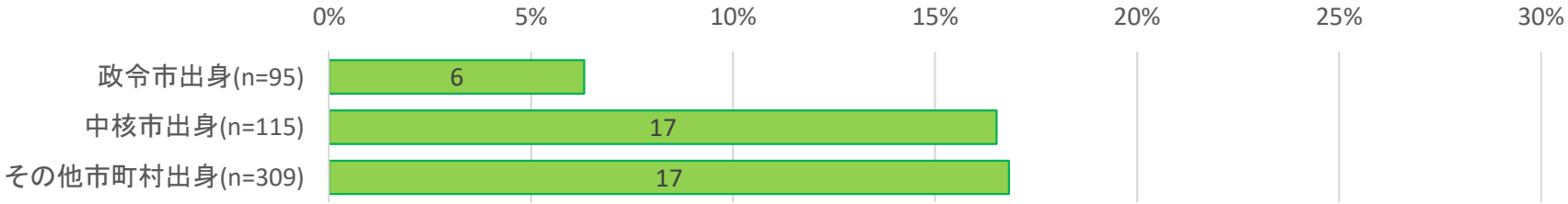
Q. あなたが地元に残らずに移住することを選択した背景となった事情として、あなたの地元にあてはまるものを全てお選びください。

※母集団：東京圏外出身の東京圏在住者

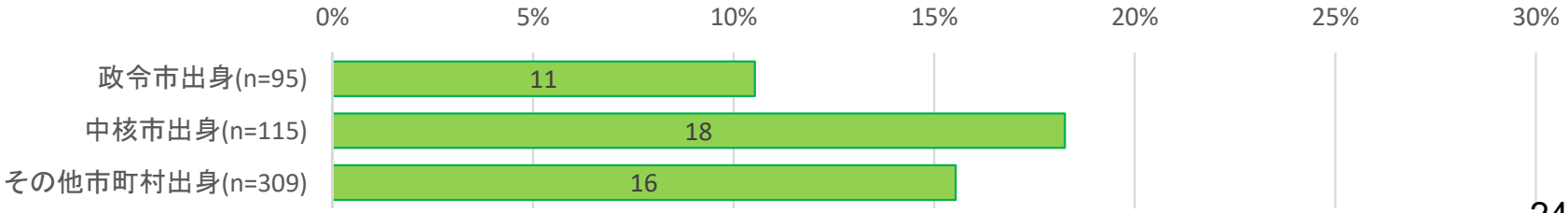
○「賃金等の待遇がいい仕事が見つからない」と回答した人の割合



○「自分の能力を生かせる仕事が見つからない」と回答した人の割合



○「希望することが学べる進学先がない」と回答した人の割合



※出身地：15歳になるまでの間で最も長く過ごした地域

人間関係やコミュニティの閉塞感

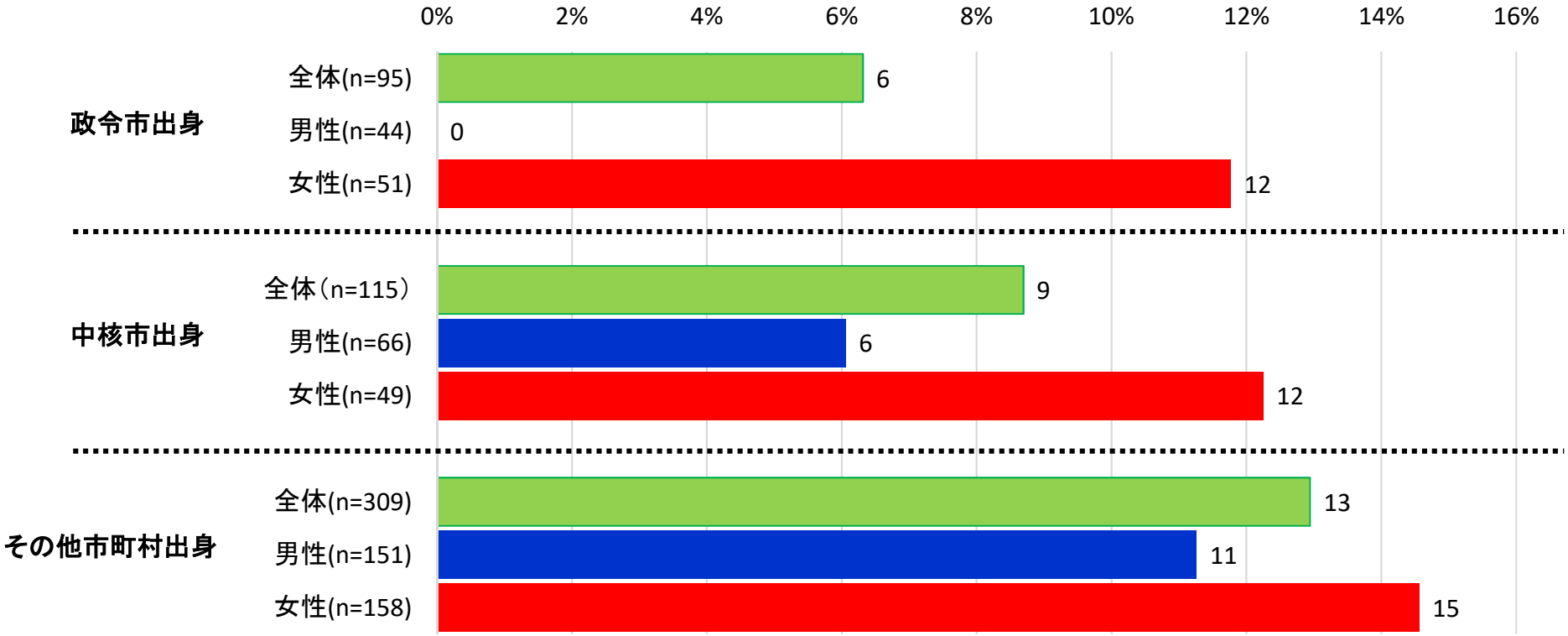
国土交通省

- 東京圏への流入者のうち、移住の背景となった地元の事情として「人間関係やコミュニティに閉塞感がある」の割合は、規模の小さい市町村出身者の方が高い。
- 男性よりも女性の方が割合は高く、女性は政令市出身者でも男性に比べ高い。

Q. あなたが地元に残らずに移住することを選択した背景となった事情として、あなたの地元にあてはまるものを全てお選びください。

〇東京圏への流入者のうち、「人間関係やコミュニティに閉塞感がある」と回答した人の割合

※母集団：東京圏外出身の東京圏在住者



※出身地：15歳になるまでの間で最も長く過ごした地域

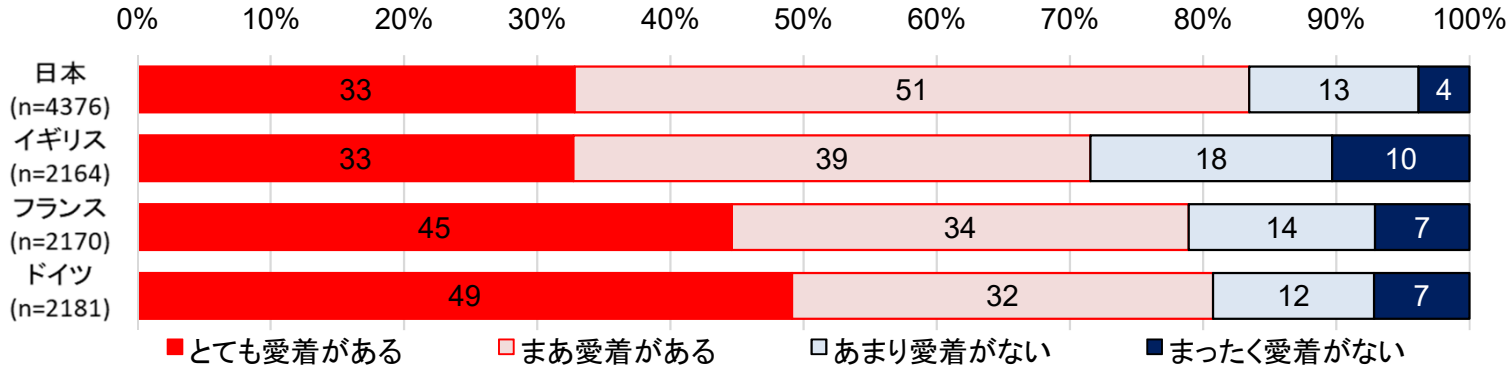
出身地への愛着

国土交通省

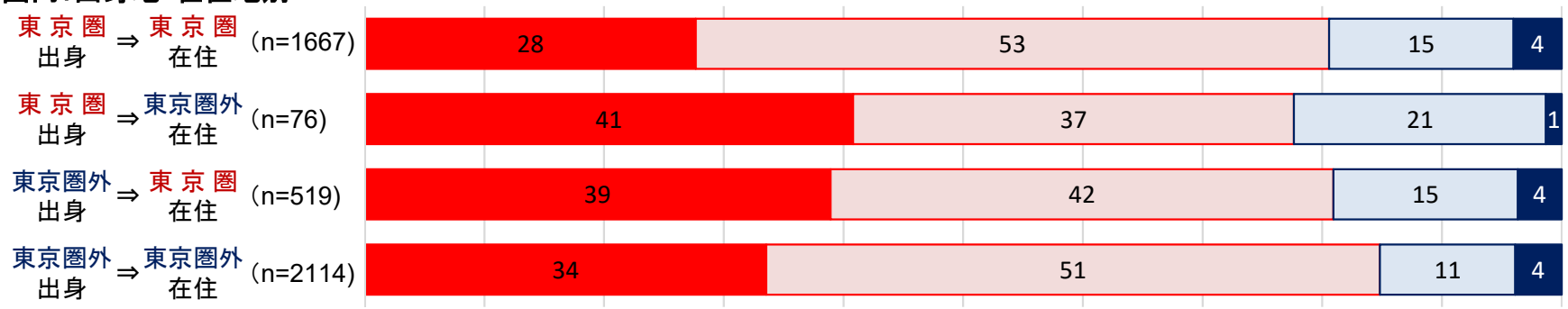
- 出身地への愛着があると回答している人の割合は、日本と欧州諸国で大きな差はない。
- 出身・在住地別で見ても東京圏への流入者が出身地への愛着が低いとは言えない。また、男女別でも大きな差はない。

Q.　出身地にあなたはどの程度愛着がありますか。

○各国比較

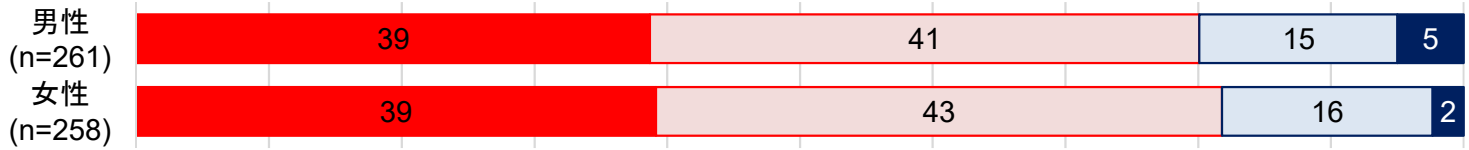


○国内：出身地・在住地別



※母集団：東京圏外出身の東京圏在住者

○国内男女比較



■とても愛着がある　□まあ愛着がある　□あまり愛着がない　■まったく愛着がない

※出身地：15歳になるまでの間で最も長く過ごした地域。

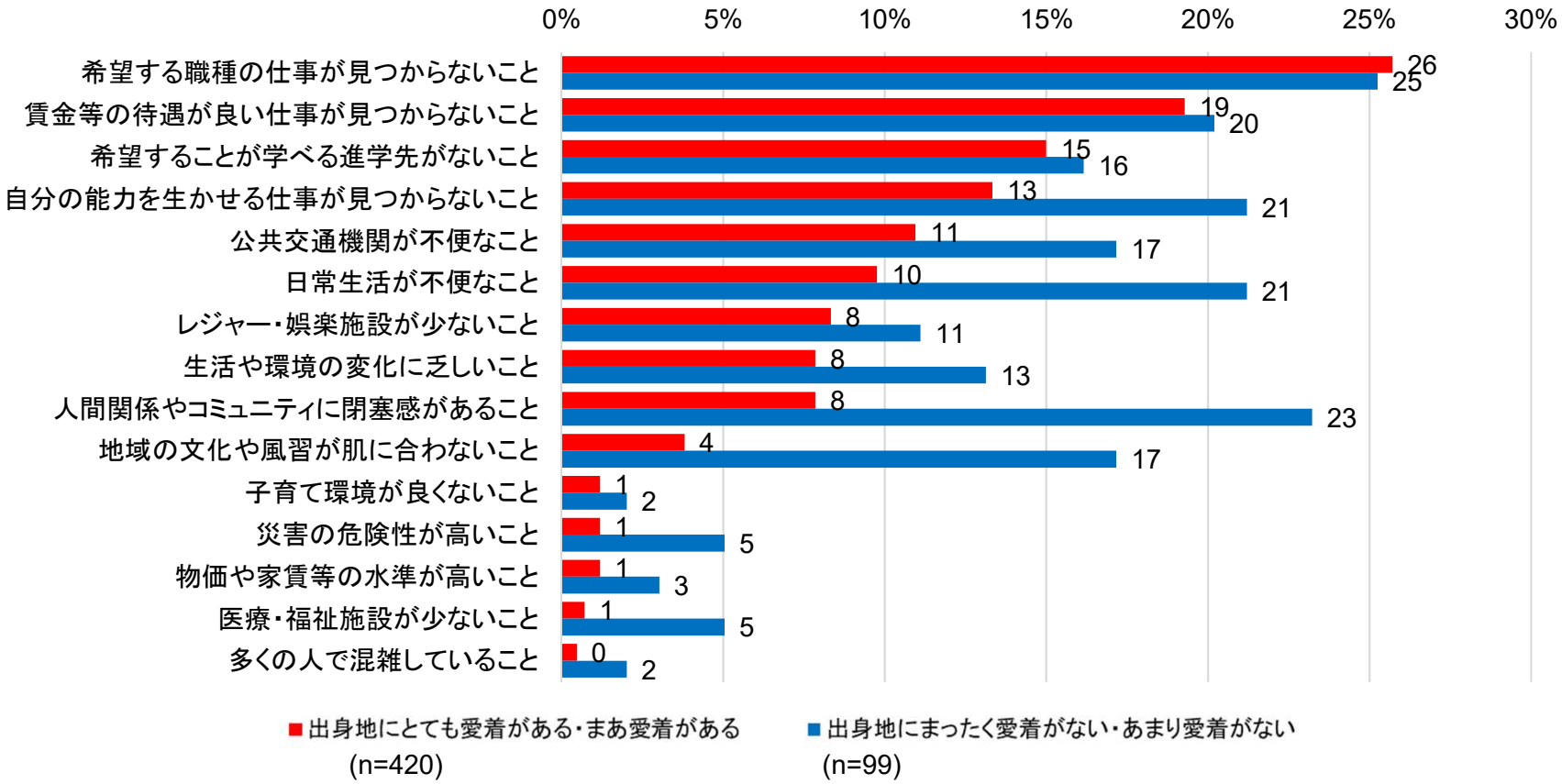
移住することを選択した背景となった地元の事情（出身地への愛着度別）

国土交通省

- 東京圏への流入者の移住の背景となった地元の事情を出身地への愛着度別に見ると、出身地に愛着がある人は「仕事」や「進学先」関係を、愛着のない人は「利便性」や「地域の閉塞感」を挙げる人の割合が高い。

Q. あなたが地元に残らずに移住することを選択した背景となった事情として、あなたの地元にあてはまるものを全てお選びください。

※母集団：東京圏外出身の東京圏在住者



※「その他」の回答を除く。
※出身地：15歳になるまでの間で最も長く過ごした地域

地域活動への参加（各国比較）

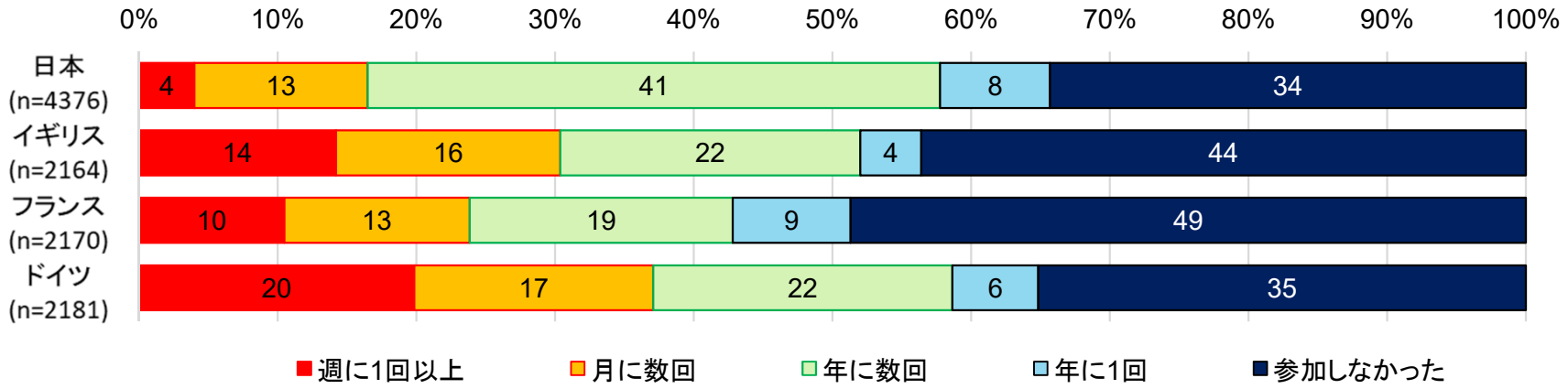
国土交通省

- 若年期の地域の諸活動への参加状況を見ると、日本は欧州諸国に比べて月に数回以上の頻度で参加する人の割合が低い。

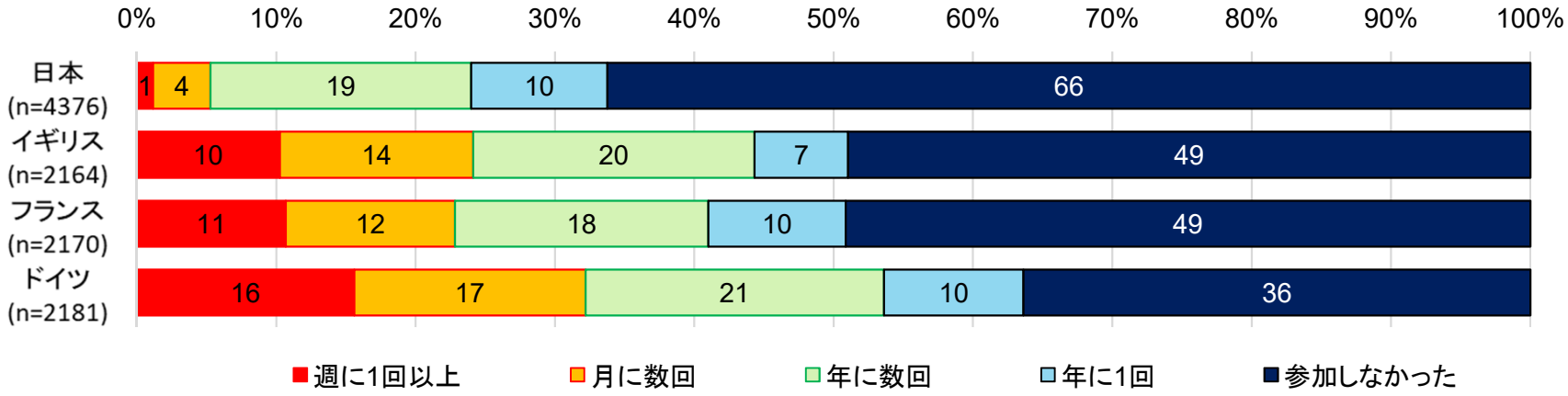
Q. あなたは次のそれぞれの期間に、地域（地域コミュニティ）の活動にどれくらい参加しましたか。

（例：お祭りなど地域振興・住民の懇親に関する活動など地域の学校・教育関連の活動、敬老会など福祉関連の活動、地域の交通問題に関する活動、地域の防犯・防災に関する活動、公園の掃除など地域の美化に関する活動）

【0歳～15歳（幼少期～少年期）】



【16歳～18歳（青年期前半）】



地域活動への参加

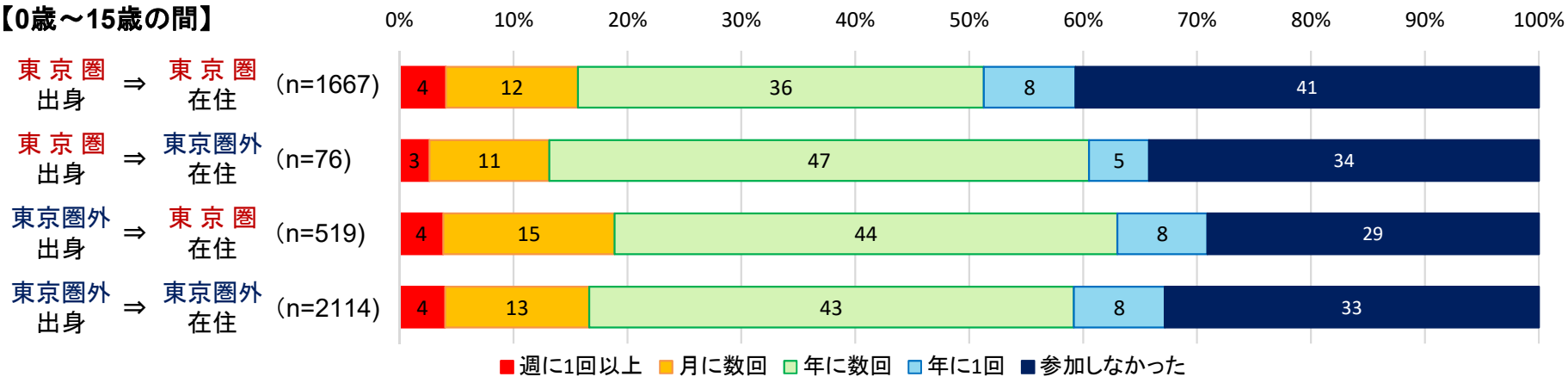
国土交通省

- 若年期の地域活動への参加状況を出身・在住地別に見ると、むしろ東京圏への流入者の方が参加回数が多い人の割合が高く、地域活動への積極的でない人が東京圏へ流入しているとは言えない。

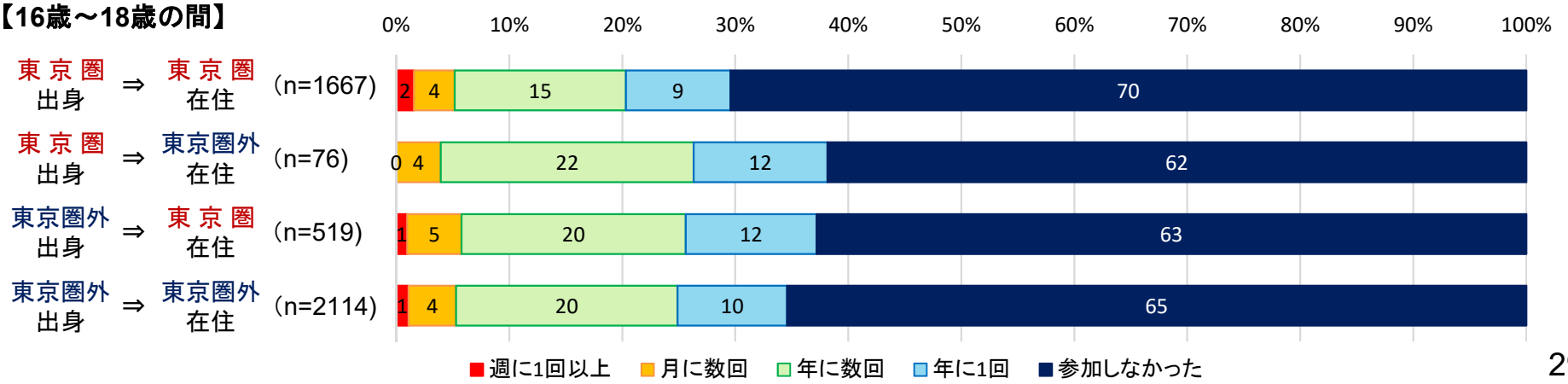
Q. あなたは次のそれぞれの期間に、地域（地域コミュニティ）の活動にどれくらい参加しましたか。

（例：お祭りなど地域振興・住民の懇親に関する活動など地域の学校・教育関連の活動、敬老会など福祉関連の活動、地域の交通問題に関する活動、地域の防犯・防災に関する活動、公園の掃除など地域の美化に関する活動）

【0歳～15歳の間】



【16歳～18歳の間】



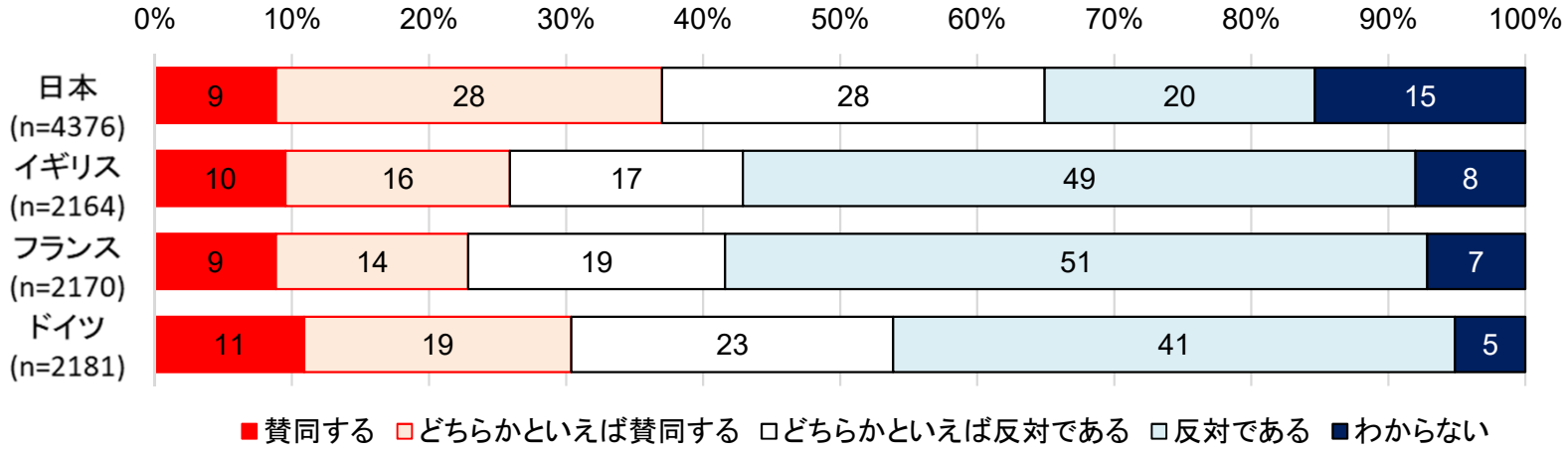
※出身地：15歳になるまでの間で最も長く過ごした地域。

男女の役割分担意識に関する女性の意識

国土交通省

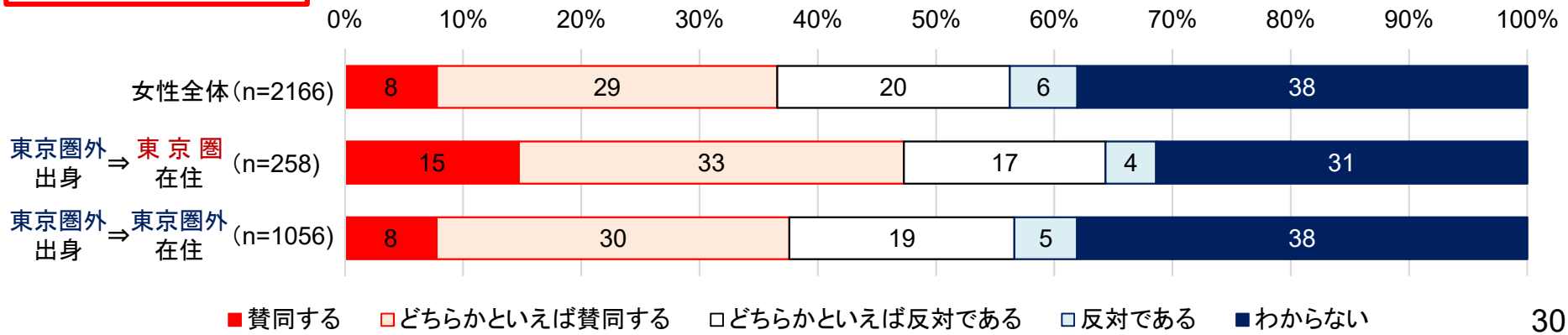
- 日本では、欧州諸国に比べて、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」という意識が強い。
- 東京圏外出身の女性のうち東京圏へ流入している女性は、「出身地の人たちが夫は外で働き、妻は家庭を守るべきという意識を持っている」、と考えている人の割合が高い。

Q. あなたは「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」といった考え方について賛同されますか。



Q. あなたの出身地の人たちは「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」といった考え方について賛同しますか。

※母集団：国内の女性



※出身地：15歳になるまでの間で最も長く過ごした地域。

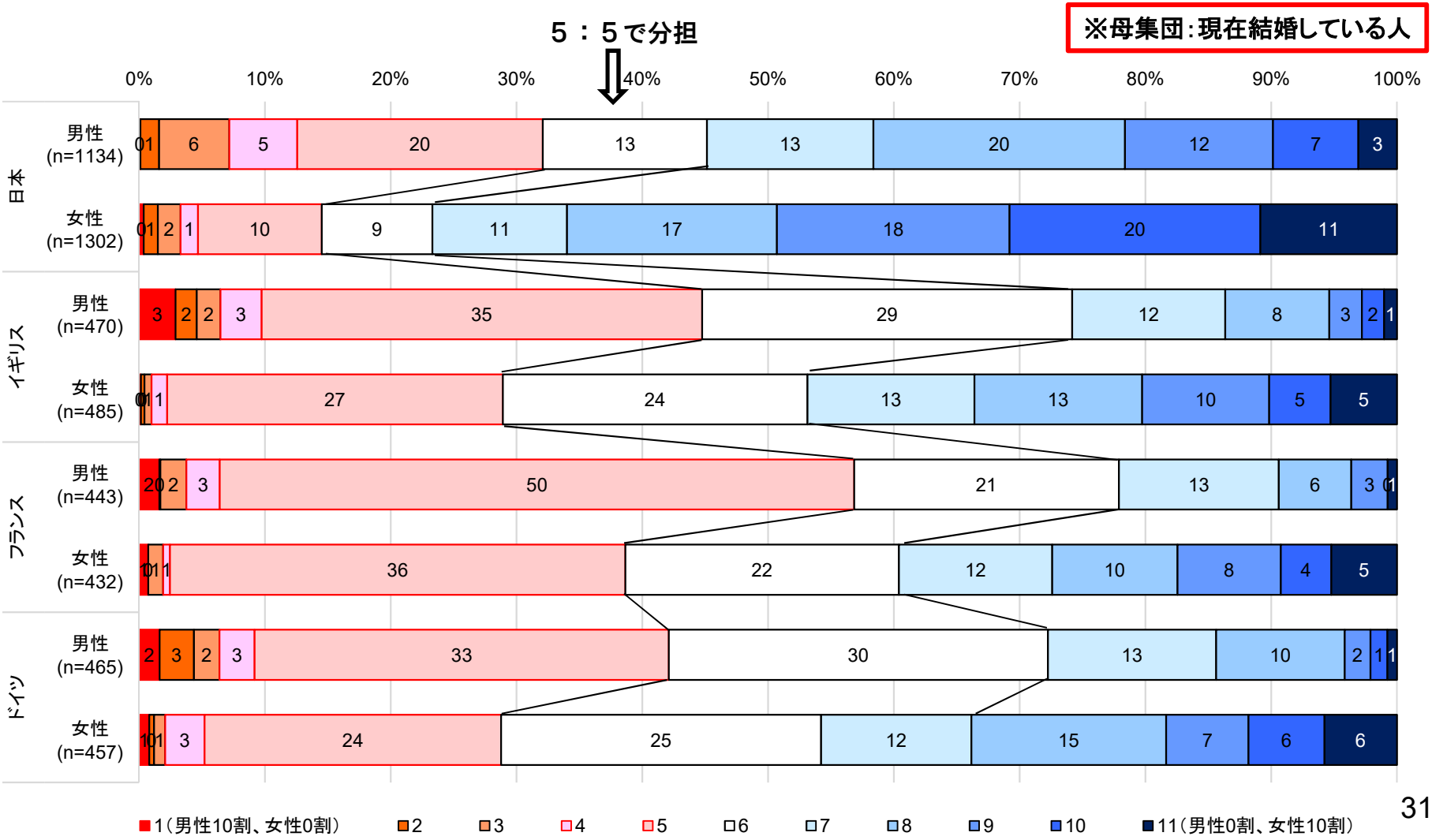
家庭における役割分担（各国比較）

国土交通省

- 日本では、欧州諸国に比べて家庭における家事・育児等の役割が女性に偏っていると回答している人の割合が高い。

Q. あなたの家庭における家事・育児等の家庭内での役割分担の状況についてお伺いします。あてはまるものをお選びください。

※母集団：現在結婚している人



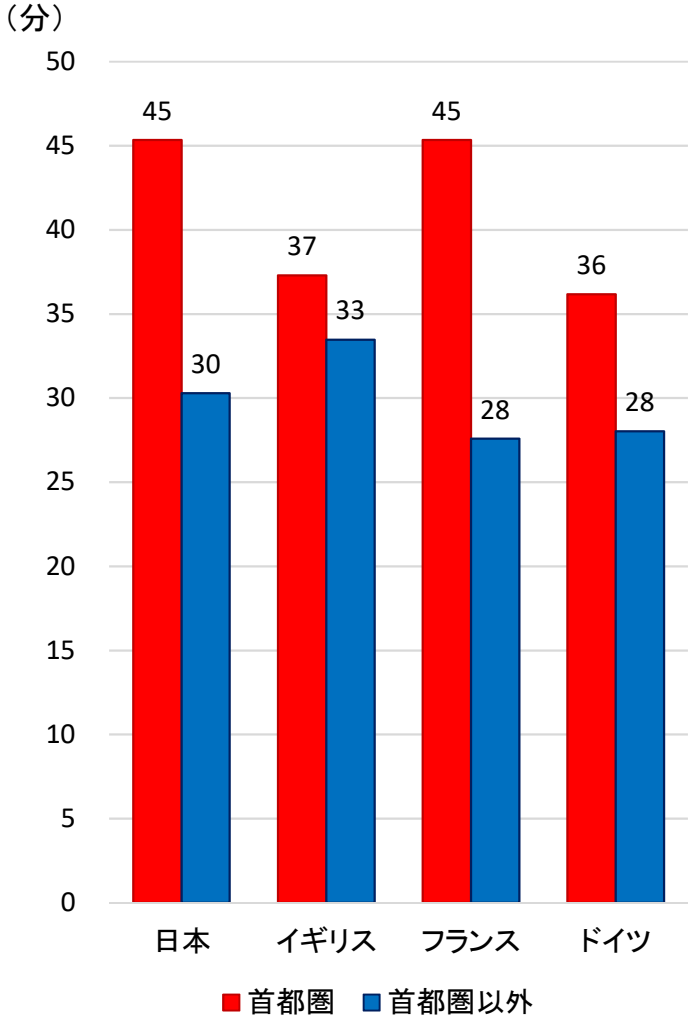
生活等の豊かさと居住環境選択

通勤時間、仕事の満足度

国土交通省

- 各国の首都圏の通勤時間を比較すると日本・フランスがドイツ・イギリスよりも長く、首都圏以外との差も大きい。
- 仕事に関する満足度は、日本は首都圏以外在住者の賃金・給与の満足度が首都圏在住者に比べて低い。

Q. あなたの通勤・通学に要する時間は片道でどのくらいですか。（コロナ禍以前の状況）



Q. あなたがご自分で感じている仕事に関する満足度についてお答えください。※「不満」を 1、「満足」を 10 とした場合の10 段階の回答を平均

		賃金・給与	労働時間	仕事のやりがい	仕事全般
日本	首都圏在住（n=1605）	4.73	5.95	5.43	5.40
	首都圏以外在住（n=1608）	4.48	5.89	5.51	5.40
イギリス	首都圏在住（n=807）	6.10	6.60	6.07	6.45
	首都圏以外在住（n=800）	6.35	6.75	6.06	6.45
フランス	首都圏在住（n=860）	5.79	6.27	5.93	6.18
	首都圏以外在住（n=796）	5.82	6.47	6.12	6.38
ドイツ	首都圏在住（n=880）	6.25	6.84	6.50	6.93
	首都圏以外在住（n=871）	6.21	6.92	6.44	6.76

生活の満足度

国土交通省

- 生活に関する満足度は、イギリスを除き首都圏外在住者の居住スペースの満足度が首都圏在住者に比べて高い。
- 日本では、その他の項目で在住地による大きな差はない。

Q. あなたがご自分で感じている生活に関する満足度についてお答えください。

※「不満」を 1、「満足」を 10 とした場合の10 段階の回答を平均

		家族関係	交友関係	居住スペース	住まいの周辺の環境	レジャー・余暇	生活全般
日本	首都圏在住 (n=2186)	6.61	6.11	6.05	6.34	5.67	6.07
	首都圏以外在住 (n=2190)	6.69	6.07	6.25	6.39	5.66	6.06
イギリス	首都圏在住 (n=1073)	7.17	6.59	6.93	6.68	7.05	6.59
	首都圏以外在住 (n=1091)	7.11	6.58	6.90	6.74	6.88	6.52
フランス	首都圏在住 (n=1077)	7.15	6.79	6.82	6.64	6.71	6.85
	首都圏以外在住 (n=1093)	7.22	6.75	7.01	6.91	7.03	6.94
ドイツ	首都圏在住 (n=1082)	7.27	7.00	7.27	7.39	7.02	7.07
	首都圏以外在住 (n=1099)	7.37	7.17	7.38	7.38	7.17	7.09

賃金に関する満足度（東京圏外出身者）（年齢別、性別・在住地別）

国土交通省

● 東京圏外出身者の賃金に関する満足度を性別・年齢別で比較すると、男女とも、どの世代においても東京圏へ流入している人の方が高い傾向がある。

Q. あなたがご自分で感じている賃金に関する満足度についてお答えください。
※「不満」を 1、「満足」を 10 とした場合の10 段階の回答を平均。対象は就業している人。

東京圏外出身者の賃金に関する満足度

	男性		女性	
	東京圏在住	東京圏外在住	東京圏在住	東京圏外在住
18-24歳	5.23	4.06	4.00	3.85
25-34歳	5.02	4.23	5.00	4.46
35-44歳	5.27	4.54	5.04	4.02
45-54歳	4.60	4.57	5.22	4.84
55-64歳	5.59	4.59	5.35	4.83
全年齢平均	5.13	4.47	5.04	4.47

※出身地：15歳になるまでの間で最も長く過ごした地域。

賃金に関する満足度（雇用形態別・学歴別、在住地別）

国土交通省

- 賃金に関する満足度を雇用労働者の雇用形態別にみると、正規職員やパート・アルバイトでは東京圏在住者の方が満足度が高い傾向にあるが、契約社員・派遣社員では東京圏在住者の方がやや低い傾向がある。
- 同様に、最終学歴別に見ると、高学歴なほど満足度が高い傾向があり、大学卒・短期大学卒では東京圏在住者の方が満足度が高い一方、専門学校卒・高等学校卒ではそこまで大きな差は無い。

Q. あなたがご自分で感じている賃金に関する満足度についてお答えください。
※「不満」を 1、「満足」を 10 とした場合の10 段階の回答を平均。対象は就業している人。

賃金に関する満足度（雇用労働者の雇用形態別）

	東京圏在住	東京圏外在住
公務員	5.83	5.40
会社員（総合職）	5.30	4.96
会社員（一般職）	4.26	4.03
会社員（契約）	4.10	4.11
会社員（派遣）	3.98	4.11
パート・アルバイト	4.82	4.65

賃金に関する満足度（最終学歴別）

	東京圏在住	東京圏外在住
大学院	5.21	5.28
大学	4.91	4.66
短期大学	4.82	4.56
専門学校	4.32	4.23
高等学校	4.41	4.39
その他	4.20	3.79

※最終学歴は、「あなたが最初の就職の直前（学生時代）に通った学校（現在学生の場合は現在通っている学校）についてお答えください」という問いに対する回答。

レジャー・余暇に関する満足度（東京圏外出身者）（年齢別、性別・在住地別）

国土交通省

● 東京圏外出身者のレジャー・余暇に関する満足度を性別で比較すると、女性は東京圏へ流入している人の方が高い傾向にある。

Q. あなたがご自分で感じているレジャー・余暇に関する満足度についてお答えください。
※「不満」を 1、「満足」を 10 とした場合の10 段階の回答を平均

東京圏外出身者のレジャー・余暇に関する生活の満足度

	男性		女性	
	東京圏在住	東京圏外在住	東京圏在住	東京圏外在住
18-24歳	5.48	5.85	5.73	5.95
25-34歳	5.52	5.66	5.73	5.59
35-44歳	5.90	5.82	5.56	5.58
45-54歳	5.20	5.49	5.85	5.46
55-64歳	5.96	5.78	6.05	5.69
全年齢平均	5.64	5.71	5.78	5.62

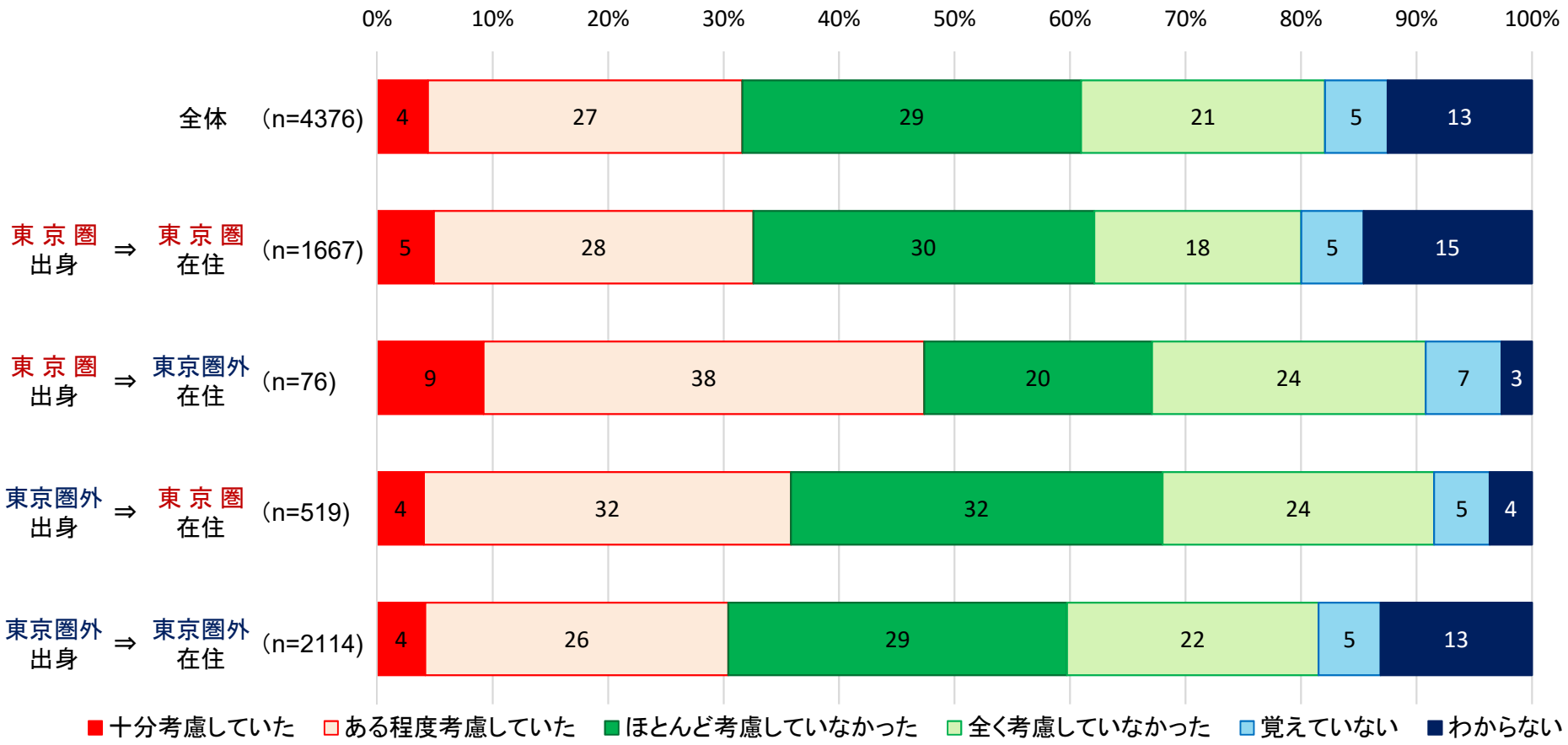
※出身地：15歳になるまでの間で最も長く過ごした地域。

居住地選択にあたっての地震災害リスクへの意識

国土交通省

- 居住地を選択する際に半数が地震災害のリスクを考慮しておらず、地震災害リスクへの認識が十分でない可能性がある。
- 東京圏からの圏外への転出者は、居住地選択において地震災害リスクを考慮している割合が高い。

Q. 現住地に住み始める際に、地震災害のリスクをどの程度考慮していましたか。



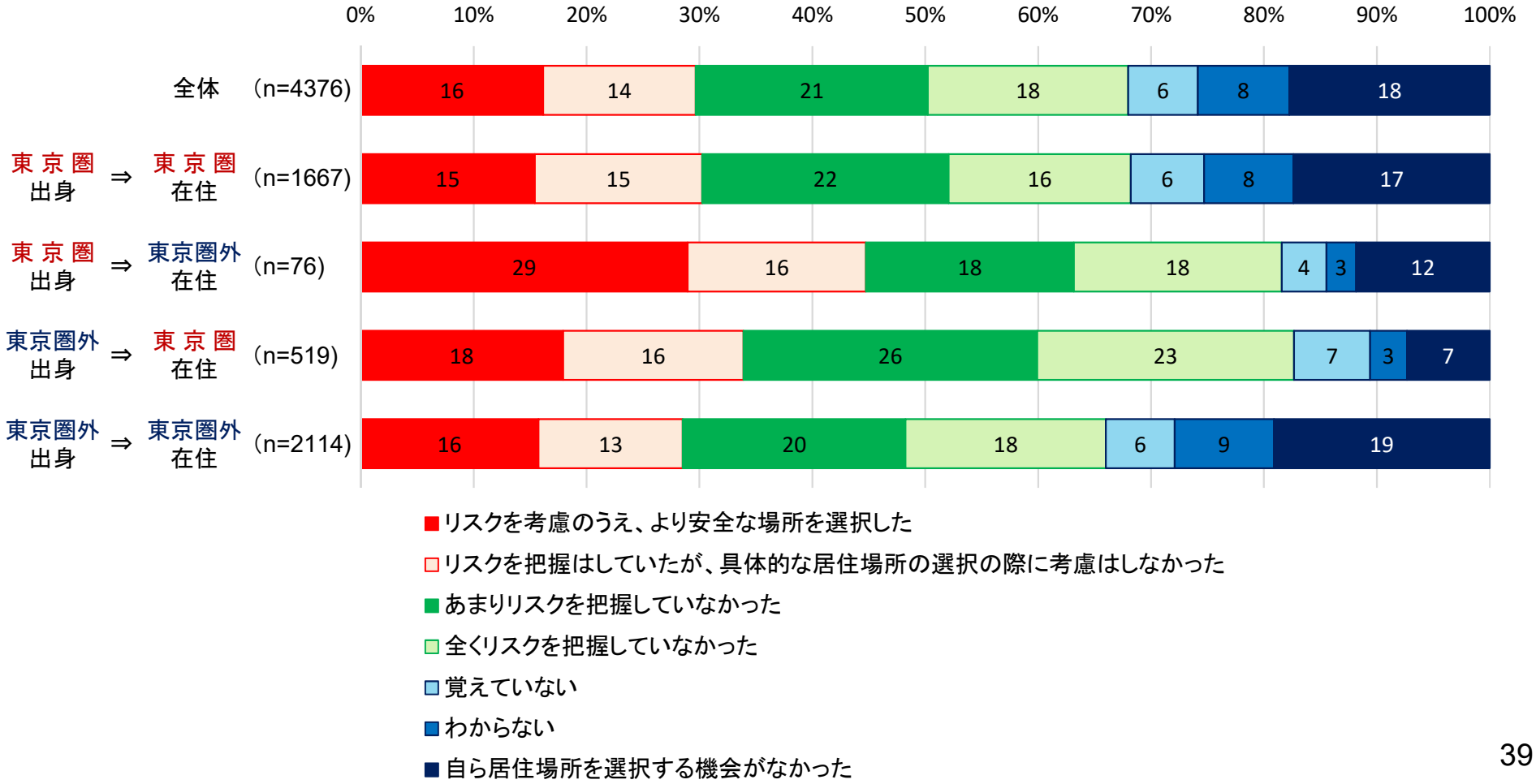
※出身地：15歳になるまでの間で最も長く過ごした地域。

居住地選択にあたっての水害リスクへの意識

国土交通省

- 居住地選択にあたり、大規模水害のリスクを把握し、具体の場所の選択の際に考慮しているのは2割に満たず、水害災害リスクへの認識が十分でない可能性がある。
- 東京圏からの圏外への転出者は、居住地選択において水害リスクを把握・考慮している割合が高い。

Q. 現住地に住み始める際に、洪水等の大規模水害のリスクについて把握し、それを具体的な居住場所の選択にあたって考慮しましたか。



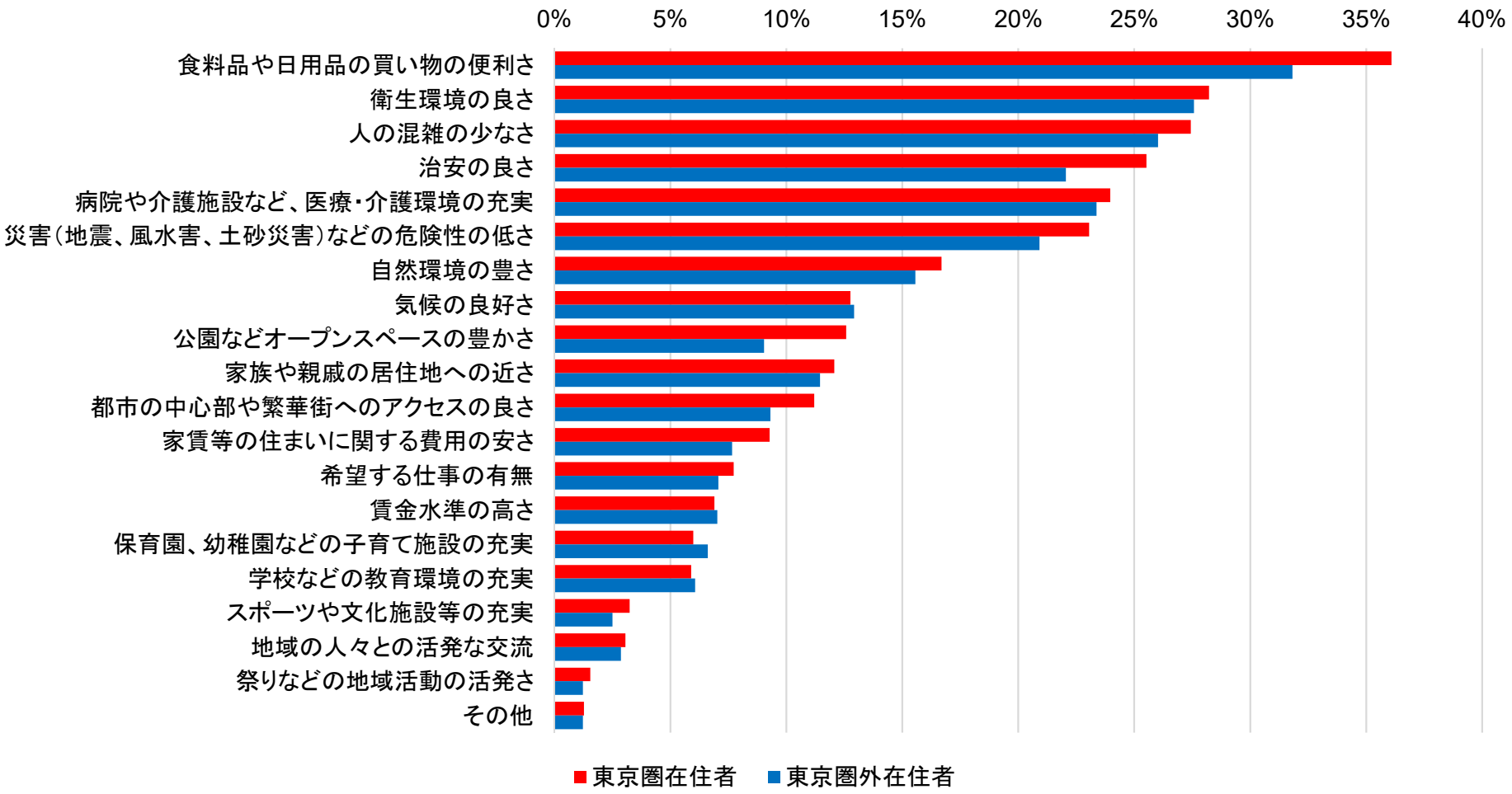
※出身地：15歳になるまでの間で最も長く過ごした地域。

居住地を選択する際に重視すること（新型コロナを受けた変化）

国土交通省

- 新型コロナウイルス感染症拡大を受けて、居住地選択の際により重視するようになったこととして、「買い物の便利さ」、「衛生環境の良さ」、「人の混雑の少なさ」の割合が高い。

Q. あなたが居住地を選択する際に重視することについて、新型コロナウイルス感染症拡大を受けて、より重視するようになったことについてお選びください。



テレワーク利用状況と移住意向

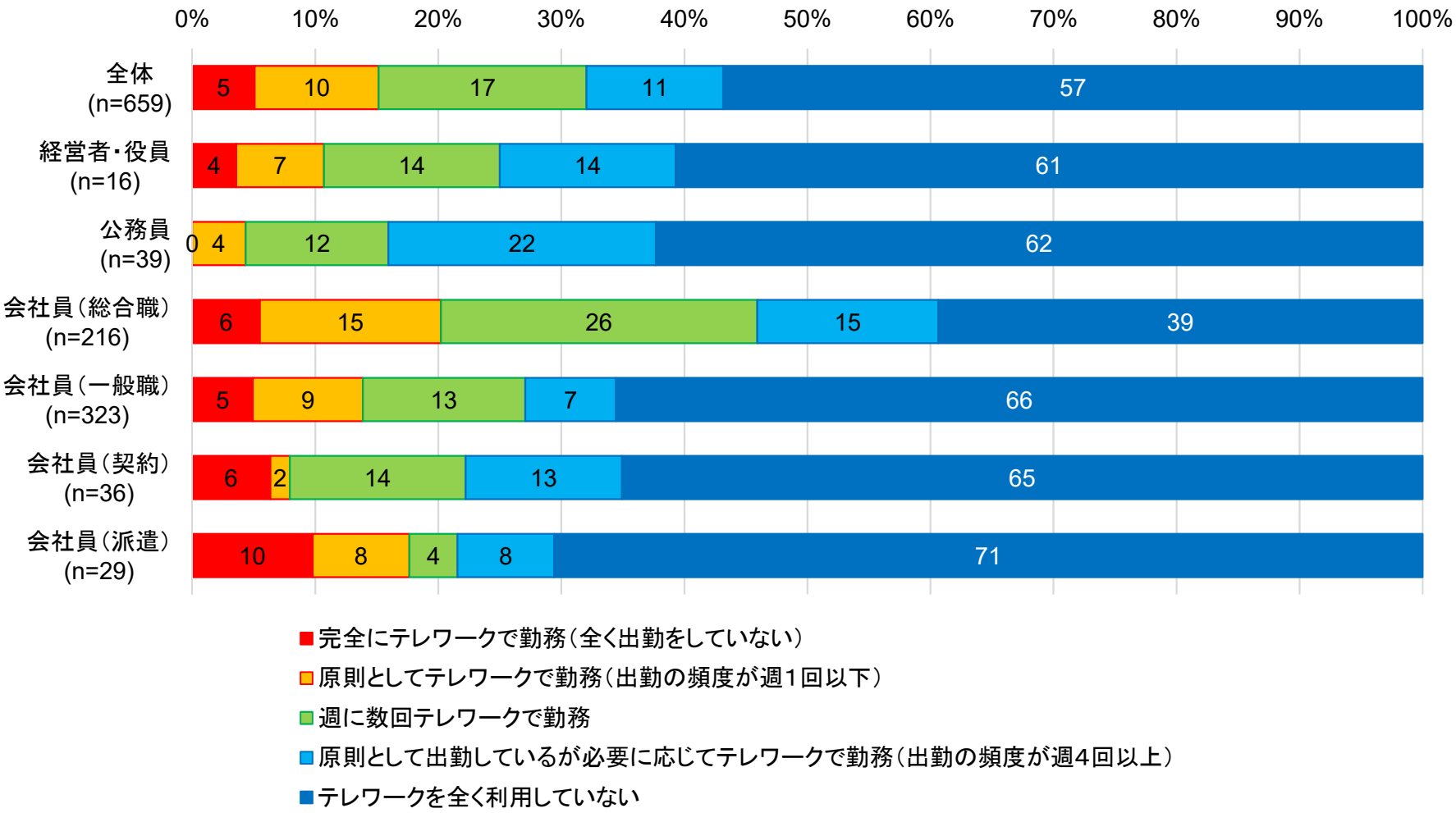
テレワーク利用状況（就業状況別）

国土交通省

- 東京圏在住のフルタイム労働者のうち、何らかの形でテレワークを利用しているのは43%。
- 就労形態別では、総合職の会社員でテレワーク利用割合が高く、半数弱が週に数回以上テレワークで勤務している。

Q. あなたは、現在通常業務でテレワークによる勤務をしていますか。

※母集団：東京圏在住のフルタイム労働者



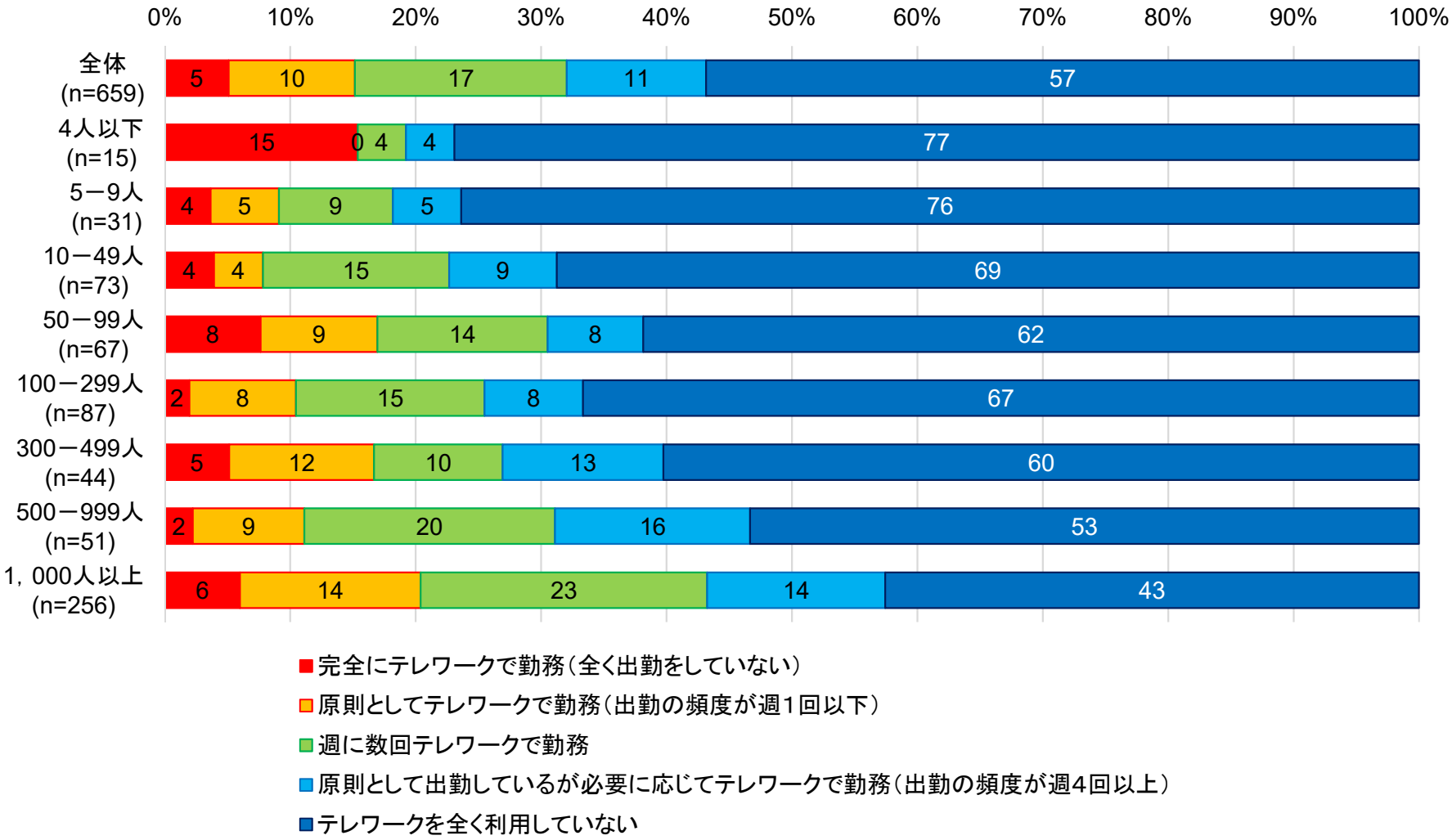
テレワーク利用状況（従業員規模別）

国土交通省

● 就業先の企業規模別にテレワークの利用状況を見ると、企業規模が大きいほど　テレワークの利用率が高い。

Q.　あなたは、現在通常業務でテレワークによる勤務をしていますか。

※母集団：東京圏在住のフルタイム労働者



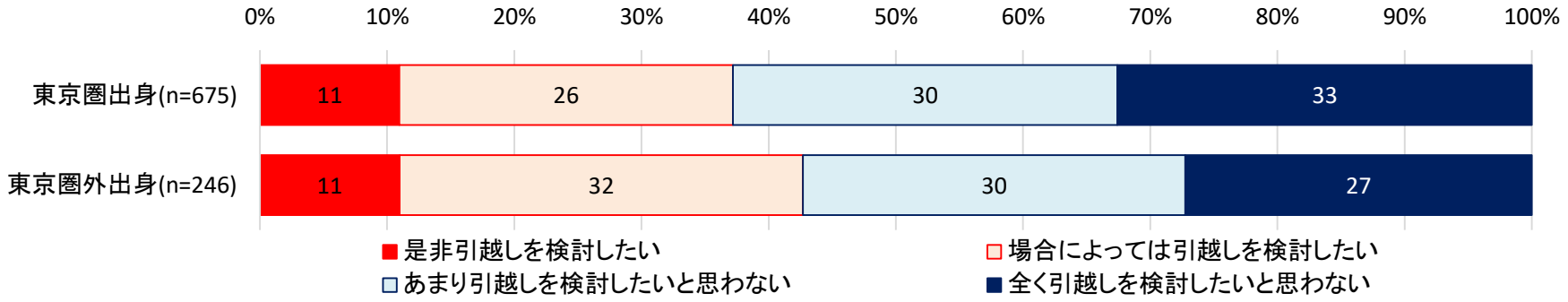
テレワークの利用状況とテレワークの普及による移住意向①

国土交通省

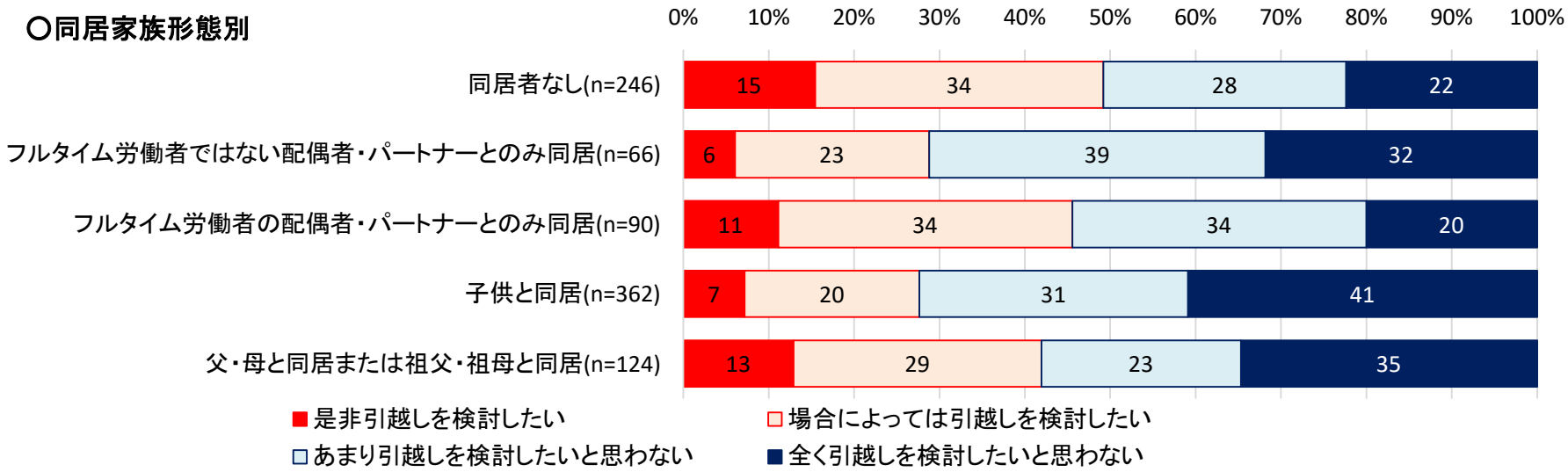
- ほぼ完全にテレワークでの勤務が可能となった場合、そのうち東京圏在住の約4割が引っ越しを検討したいと回答している。
- 同居家族形態別にみると、子供と同居している世帯では、「引っ越しを検討したい」とする割合が低い。

Q. 業務上の制限や設備等の制約が無くなり、ほぼ完全にテレワークでの勤務（出勤は月に1度未満）が可能となった場合、現住地からの引っ越しを検討したいと思いますか。現在完全にテレワークをしている人は現在の状況についてお答えください。

※母集団：東京圏在住のフルタイム労働者のうち、「テレワークの利用が想定されない」と回答した人（21%）を除く



○同居家族形態別



※出身地：15歳になるまでの間で最も長く過ごした地域。

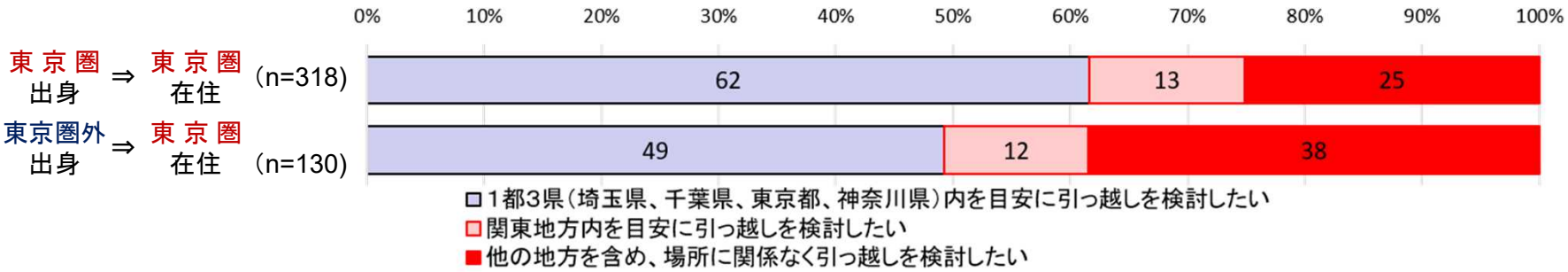
テレワークの利用状況とテレワークの普及による移住意向②

国土交通省

- テレワークでの勤務を前提として引っ越しを検討する場合の引っ越し先については、東京圏への流入者の方が東京圏出身・在住者よりも関東圏外を含めて検討したいという回答の割合が高い。
- 移住を検討しない理由としては、「現住地の生活利便性の高さ」が最も多く、同居家族形態によっては「配偶者等の勤務上の都合」や「子育て・教育上の都合」を挙げている。

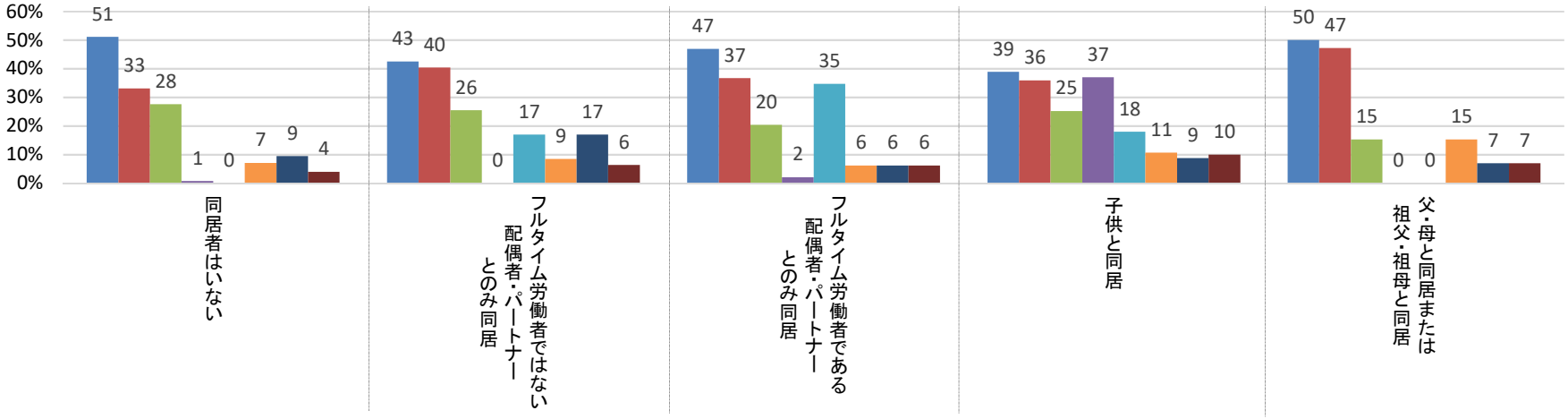
Q. 移住を検討する場合、どの程度の範囲の地域で引っ越しを検討したいと考えますか。

※母集団：「検討したい」と回答した人



Q. 移住を検討しない主な理由は何ですか。

※母集団：「検討したいと思わない」と回答した人



※出身地：15歳になるまでの間で最も長く過ごした地域。
※関東地方：茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県